説明ターゲット

次の原稿不鮮明な部分あり

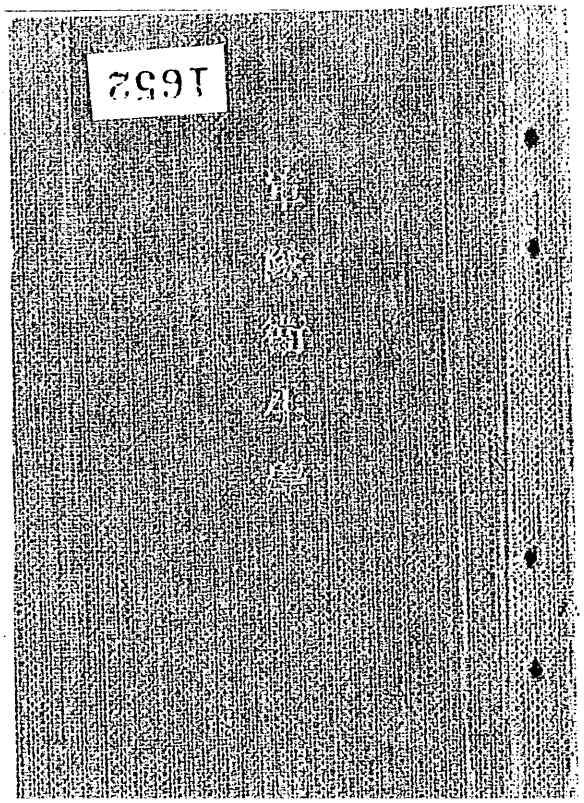
1652 ~ 1836

7 年 5 月 30 日

主務者又は

撮影立会者 坂根嘉和 (印)

アジア歴史資料センター



1652

アジア歴史資料センター

昭和十四年十二月十六日

七年ぶ第二六〇五号

1653

アジア歴史資料センター

1654

陸普第二五七六號

軍隊衛生學規定ノ件達

（甲）

陸軍一般

軍隊教育令ニ依リ教育スヘキ軍隊衛生學別冊ノ通定ム

昭和四年五月二十九日

陸軍大臣　白川義則

アジア歴史資料センター

1655

軍隊衛生學

目次

第一編　總說……一頁
第二編　人體ノ構造及其作用……五
第一章　各部ノ構造……五
第二章　筋ノ作用……一〇
第三章　消化器ノ作用……一一
第四章　循環器ノ作用……一二
第五章　呼吸器ノ作用……一四

アジア歴史資料センター

1656

第六章　泌尿器ノ作用……一六
第七章　神經ノ作用……一六
第八章　皮膚ノ作用……一七
第三編　被服及裝具……一九
第一章　被服……一九
第二章　裝具……二四
第三章　負擔量……二五
第四編　給養……二七
第一章　養素……二七
第二章　食品……二九
第三章　養價……三三

アジア歴史資料センター

1657

第四章　獣立……三六
第五章　調理……三七
第六章　炊事場及酒保……三八
第五編　給水……四三
第一章　水ノ種類……四四
第二章　飲料水……四五
第三章　現場ニ於ケル水ノ判定……四六
第四章　野外ニ於ケル給水……四八
第五章　浄水法……五〇
第六編　兵營及宿營……五五
第一章　兵舎……五五

アジア歴史資料センター

1658

第二章　營內附屬建物……五九
第三章　宿營……六二
第一　舍營……六三
第二　廠營……六四
第三　露營……六五
第七編　身神ノ訓練……六九
第一章　通則……六九
第二章　各種運動……七一
第三章　行軍……七五
第一　出發前……七五
第二　行軍間……七七

アジア歴史資料センター

1659

第三　到著後……八〇
第四章　劍術……八一
第五章　馬術……八二
第六章　射撃……八四
第七章　游泳……八六
第八章　土工作業……八八
第九章　爆破作業……八九
第十章　疲勞……九〇
第十一章　身體ノ保清……九三
第八編　軍隊ニ多キ傷病及其豫防法……九七
第一章　教練及職鬪ニ因リ起リ易キ外傷……九八

アジア歴史資料センター

1660

第一　挫傷……九八
第二　挫創……九九
第三　切創……一〇〇
第四　刺創……一〇〇
第五　銃創……一〇〇
第六　砲創……一〇一
第七　爆創……一〇一
第八　捻挫……一〇二
第九　脱臼……一〇二
第十　骨折……一〇三
第十一　化骨性筋炎……一〇三

アジア歴史資料センター

1661

第十二　創傷傳染病……一〇四
第十三　戰鬪用毒瓦斯……一〇五
第二章　行軍ニ因リ起リ易キ疾病……一〇七
第一　靴傷……一〇七
第二　鞍傷……一一〇
第三　足腫……一一一
第四　「アヒレス」腱鞘炎……一一一
第五　脛骨骨膜炎……一一二
第三章　給養ニ因リ起リ易キ疾病……一一二
第一　脚氣……一一三
第二　壞血病……一一四

アジア歴史資料センター

1662

第三　食中毒……一一四
第四章　氣候風土ニ因リ起リ易キ疾病……一一六
第一　暍病……一一六
第二　感冒性疾患……一一八
第三　凍傷……一二〇
第四　凍死……一二二
第五　雪盲……一二三
第五章　不潔ニ因リ起リ易キ疾病……一二四
第一　瘡及癰……一二四
第二　皮下蜂窠織炎……一二四
第三　頑癬……一二五

アジア歴史資料センター

1663

第四　汗疱疹（水蟲）……一二六
第五　「トラホーム」……一二六
第六章　不攝生ニ因リ起リ易キ疾病……一二七
第一　胃腸病……一二七
第二　性病……一二八
第七章　其他ノ疾病……一三〇
第一　肺結核……一三〇
第二　胸膜炎（肋膜炎）……一三二
第三　精神病……一三三
第九編　防疫……一三五
第一章　病原體……一三六

アジア歴史資料センター

1664

第二章　傳染徑路……一三七
第三章　菌保有者……一三九
第四章　免疫……一四〇
第五章　豫防接種……一四一
第六章　傳染病ノ豫防……一四三
第七章　消毒法……一四五
第八章　主要ナル傳染病……一四八
第一　腸「チフス」及「パラチフス」……一四八
第二　赤痢……一四九
第三　「コレラ」……一五〇
第四　流行性腦脊髓膜炎……一五一

アジア歴史資料センター

1665

第五「ペスト」……一五二
第六 發疹「チフス」……一五三
第七 猩紅熱……一五四
第八 流行性感冒……一五四
第九「マラリア」……一五五
第十編 救急法……一五七
第一 止血法……一五七
第二 人工呼吸法……一五八
第三 卒倒……一五九
第四 火傷……一六〇
第五 電氣傷……一六〇

アジア歴史資料センター

1666

第六　溺水……一六一
第七　埋沒……一六一
第八　瓦斯傷……一六二
附圖……一六六
第一圖……一六六
第二圖……一六六
第三圖……一六六
第四圖……一六六
第五圖……一六六
第六圖……一六六

軍隊衛生學目次終

アジア歴史資料センター

1667

軍隊衛生學

第一編 總說

第一 軍隊衛生ノ目的ハ軍人ノ健康ヲ常ニ良好ニ保全シ且之ヲ增進シ平時ニハ教育ノ完成ニ資シ戰時ニハ戰鬪力ヲ充實セシムルニ在リ

第二 健康ヲ保全スルニハ常ニ規則正シキ生活ヲ營ミ健康上有害ナル事項ニ注意シ之カ排除及改善ヲ圖ルヲ要ス

第三 健康ヲ增進スルニハ給與ヲ適切ニシ筋骨ヲ鍛錬シテ身體ヲ强壯ニスルニ在リ、體力充實スレハ氣力從テ旺盛トナリ持久力ヲ增スニ至ル、此ノ如クニシテ克ク風土ノ變易ニ應シ困苦缺乏ニ堪ヘ戰鬪ニ從事

アジア歴史資料センター

1668

スルコトヲ得ヘシ

第四　兵器如何ニ精鋭ニシテ裝備如何ニ整フモ士卒ノ健康狀態良好ナラサレハ兵業ヲ休ム者多クシテ訓練ノ精鋭ヲ期シ得サルノミナラス除役死亡ノ爲兵數ヲ減少セシメ戰時ニ在リテハ未タ敵ト戰ハサルニ既ニ病ノ爲兵員ヲ失フニ至ル、古來戰役ニ於テ士卒ノ病ニ因ル減耗ハ敵火ニ因ル損害ヨリモ概シテ多大ナリ

殊ニ急性傳染病ノ如キハ忽チ累ヲ他ニ及シ悲慘ナル結果ヲ來スコトアリ

第五　兵卒ハ壯丁中ヨリ優良ナル體格ヲ有スルモノヲ選拔シアルモ各人ノ素質ニ强弱アルノミナラス生活狀態ノ變化ハ其心身ニ著シキ影響ヲ及シ且規律アル生活ヲ必要トスルヲ以テ幹部ハ其保健、攝養ニ關シ

アジア歴史資料センター

1669

深厚ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス

第六　內務班長タル下士ハ兵卒ノ慈母ヲ以テ任スルモノナレハ常ニ兵卒ノ個性、素質等ヲ知悉シ周到ナル著意ト懇篤ナル指導トニ依リ其健康ヲ保全セシメ以テ教育ヲ完成シ國軍ノ基礎ヲ堅實ニ爲スノ覺悟アルヲ要ス

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

1671

第二編　人體ノ構造及其作用

第七　衛生上ノ基礎知識トシテ先ツ人體ノ構造及其作用ノ概要ヲ知ルヲ要ス

第八　人體ハ頭、頸、胸、腹、骨盤、上肢、下肢ヨリ成リ骨ヲ支柱トシ筋肉之ヲ包ミ其外部ヲ被フニ皮膚ヲ以テシ內部ニ種々ノ臟器アリテ生活機能ヲ營ム

第一章　各部ノ構造

第九　頭ニハ腦ヲ包ム、腦ハ精神ヲ宿シ又神經ノ中樞ヲ爲ス

第十　頸ニハ喉頭、氣管、食道、脊柱アリ、其兩側ニハ頸動脈、頸靜

アジア歴史資料センター

脈及重要ナル神經アリ、頸ノ後方ヲ項(ウナジ)ト云フ

第十一　脊柱ハ數多ノ椎骨相重ナリ其間ニ軟骨アリテ屈伸ヲ營ミ且前後ニ輕度ノ彎曲ヲ爲スヲ以テ上下ノ衝動ヲ緩ムルニ效アリ

第十二　脊柱ニハ脊柱管アリ腦ヨリ長ク垂下セル脊髓ヲ容ル、脊髓ハ左右ニ多數ノ神經ヲ出シ神經ハ更ニ岐レテ全身ニ分布ス

第十三　胸廓ハ胸部ノ脊柱ト胸ノ前面ニ在ル胸骨及此等ニ連ナル肋骨トヨリ成ル

第十四　肋骨ト肋骨トノ間ニハ肋間筋アリ胸廓ノ運動ヲ營ミ呼吸ニ與ル

第十五　胸廓ノ内ニハ左右ニ肺臟アリ、胸壁ノ内面ト肺臟ノ表面トニ胸膜(肋膜)アリ、此膜間ニ少量ノ液アリ

1672

アジア歴史資料センター

16773

第十六 心臟ハ兩肺間ニ在リテ左ニ偏シ大動脈及大靜脈ニ連ナル、大動脈及大靜脈ハ脊柱ノ前ヲ下リテ腹部ニ入リ腹部大動脈、腹部大靜脈トナル

第十七 腹腔ハ横隔膜ヲ以テ胸腔ト界セラレ骨盤ハ其底トナリ内臟ヲ容ル、腹腔内臟ノ主ナルモノハ胃、腸、肝、脾、腎等ナリ

第十八 肝ハ横隔膜ノ直下ニ在リ、其下面ニハ膽嚢アリテ膽汁ヲ蓄フ

第十九 脾ハ左上腹部ニ在リ

第二十 腎ハ左右二箇アリ腹腔ノ後壁ニ於テ上方ニ位シ輸尿管ニ依リ膀胱ニ連ナリ尿道ニ通ス

第二十一 胃ハ上腹部ニ在リテ腸ニ連ナル

第二十二 腸ハ細長クシテ小腸及大腸ヨリ成リ肛門ニ終ル、大腸ノ始

アジア歴史資料センター

マル部分ヲ盲腸ト云ヒ其一端ニ蚯蚓ノ如キ細管アリ、之ヲ蟲様突起ト云ヒ右ノ下腹部ニ位ス

第二十三　骨盤ハ其外側兩面ニ脾臼ト稱スル窩（クボミ）アリテ大腿骨頭ヲ容レ股關節ヲ爲ス

骨盤下部ニハ坐骨結節アリ、騎乘ニ當リ體重ヲ支フ

第二十四　下肢ハ大腿、下腿及足ヨリ成リ大腿ニハ大腿骨アリ膝關節ニ依リ下腿ニ連ナル、下腿ニハ脛骨及腓骨アリ足關節ニ依リ足ニ連ナル、足ハ數箇ノ短小ナル骨ヨリ成リ關節ヲ爲シテ互ニ相連ナル

第二十五　大腿ニ在ル大ナル血管ヲ股動脈及股靜脈ト云ヒ股ノ内側ニ沿ヒテ下行シ膝腘（ヒカガミ）ニ於テ岐レ足ニ至ル、股動脈ハ止血ニ當リ必要ナルモノナリ

1674

アジア歴史資料センター

16975

第二十六 胸廓ノ最上部ニハ兩側ニ鎖骨アリ、肋骨ト平行シテ胸骨ノ最上端ニ接シ外端ハ胸ノ背面上部ニ在ル肩胛骨ニ連ナル

第二十七 肩胛骨ノ外側ニハ淺キ窩アリ上膊骨頭トニテ肩胛關節ヲ作ル、此關節ハ窩淺キヲ以テ脱臼シ易シ

第二十八 上肢ハ上膊、前膊及手ヨリ成ル、上膊ニハ上膊骨アリ肘關節ニ依リ前膊ニ連ナル、前膊ニハ拇指側ニ橈骨、小指側ニ尺骨アリ腕關節ニ依リ手ニ連ナル、手ハ數箇ノ短小ナル骨ヨリ成リ關節ヲ作リテ互ニ相連ナル

第二十九 上肢ノ血管ハ大動脈ヨリ岐レ鎖骨下ヲ通リ上膊ニテハ上膊動脈ト云ヒ上膊ノ内側ニ沿ヒテ下リ肘ヨリ以下ニテハ橈骨動脈ト尺骨動脈トニ岐レ手ニ至ル

アジア歴史資料センター

1676

靜脈ハ概ネ動脈ニ沿ヒテ走ル

上膊動脈ハ止血ニ、橈骨動脈ハ脈搏ヲ算スルニ必要ナリ

第二章　筋ノ作用

第三十　筋ノ兩端ハ關節ヲ距テテ骨ニ附著シ其收縮ニ依リテ關節ノ運動ヲ營ム、關節ヲ屈セシムル筋ヲ屈筋ト云ヒ伸サシムル筋ヲ伸筋ト云フ、關節ニハ必ス此相拮抗スル筋アリ

第三十一　筋ハ之ヲ使用セサルトキハ萎縮シテ其作用衰フルモ使用適度ナルトキハ血行良好トナリ榮養ヲ增シ肥大ス、個頗ナル運動ハ個頗ナル發育ヲ促ス

鍛錬ヲ缺キ且榮養不良ナル筋ハ疲勞シ易シ、筋ノ狀態良好ナルモ運動

アジア歴史資料センター

過劇ナルトキ及一定時間一局部ノ筋ノミヲ連續使用スルトキハ疲勞大ナリ、故ニ筋ヲ永ク使用セントセハ筋ノ著シク疲勞セサルニ先タチ休止スルヲ利アリトス

第三章　消化器ノ作用

第三十二　消化器ハ口腔、食道、胃、腸及之ニ附屬スル唾腺、肝、膵等ヲ云フ

食物ハ咀嚼セラレ唾液ト混シ嚥下セラル、胃ニ於テハ胃液ト混シ腸ニ於テハ膵液、膽汁、腸液之ニ加ハリ消化酵素ノ作用ニ依リ可溶性ノ物質トナリ蠕動ニ依リ下方ニ送ラレ主トシテ腸壁ニ吸收セラレテ血液中ニ移行シ不消化分ハ肛門ヨリ排泄セラル

アジア歴史資料センター

第三十三　咀嚼ハ食物ヲ粉碎スルノミナラス消化液ノ分泌ヲ誘發セシム、故ニ食事ニ當リテハ能ク咀嚼スルヲ要ス、早急ニ嚥下スルハ惡シキ習慣ニシテ消化ニ害アリ[illegible]食後ハ直ニ劇動セサルヲ可トス[illegible]

第四章　循環器ノ作用

第三十四　血液循環ノ中樞ハ心臟ナリ、血液ヲ心臟ヨリ送リ出ス血管ヲ動脈ト云ヒ心臟内ニ還ヒ込ム血管ヲ靜脈ト云フ、心臟ハ約拳大ニシテ左右二心ニ分レ更ニ各〻心房ト心室トニ分ル、左右ノ房室間及心室ト脈管トノ界ニハ瓣膜アリテ血液ノ逆流ヲ妨ク[illegible]

第三十五　心臟ハ絶エス自動的ニ擴張又ハ收縮シテ血液ノ循環ヲ持續ス

1678

アジア歴史資料センター

1679

第三十六 新鮮ナル血液ハ心臓ノ左室ヨリ大動脈ヲ經テ全身ノ動脈ニ至リ毛細管ヲ通過中酸素ト榮養物トヲ組織ニ與ヘ炭酸瓦斯、疲勞物質等ヲ收容シテ次第ニ大ナル靜脈ニ集リ大靜脈ヨリ右心房ヲ經テ右心室ニ入リ肺動脈ニ依リ肺臓ニ至リ肺毛細管ヲ通過中空氣ニ接シ炭酸瓦斯ヲ排出シ酸素ヲ得テ新鮮トナリ左心房ニ歸リ循環ヲ繼續ス

第三十七 血液ハ赤血球、白血球、血清等ヨリ成ル、血液ニハ血色素アリ酸素ヲ含ムコト多キトキハ鮮紅色ニシテ(動脈血)炭酸ヲ含ムコト多キトキハ暗紅色ヲ呈ス(靜脈血)、白血球ハ體內ニ入リシ細菌等ヲ喰滅スル作用アリ、血清ハ主トシテ免疫作用ニ與ル

第三十八 淋巴液ハ組織ヨリ出テ淋巴管ニ集リ淋巴腺ニテ濾過セラレ更ニ集リテ靜脈ニ入ル、淋巴液ノ作用ハ概ネ血液ニ似タリ

アジア歴史資料センター

第三十九　血管ヲ壓迫スルトキハ血行ヲ妨ケ各部ノ作用ヲ減退セシム例ヘハ小キ靴ハ足ノ血行ヲ妨ケ狹キ服ハ胸腹部ノ血行ヲ害シ疾病ノ原因トナルカ如シ

第四十　心臟ノ運動ハ脈搏トシテ觸ル、健康ナル大人ニ在リテハ一分間六十乃至八十ナリ

第五章　呼吸器ノ作用

第四十一　呼吸器ハ鼻腔、喉頭、氣管、氣管支及肺ヨリ成ル

第四十二　鼻腔內ハ凹凸ニシテ鼻毛アリ塵埃ヲ抑留シ吸氣ヲ溫ムル作用アリ

第四十三　鼻ヨリ入リタル空氣ハ喉頭、氣管及氣管支ヲ經テ肺ニ至ル

1680

アジア歴史資料センター

肺ハ無數ノ肺胞ヨリ成リ恰モ海綿ノ如シ

第四十四　肺ハ新鮮ナル空氣ヲ吸入シ肺胞ノ壁ヲ透シ血液ニ酸素ヲ與ヘ炭酸瓦斯ヲ排出ス

第四十五　肺ハ彈力アリ、胸廓ヲ張レハ肺擴リテ外氣ハ肺ニ入リ（吸氣）胸廓ヲ縮ムルトキハ肺縮小シ肺胞内ノ空氣ヲ排出セシム（呼氣）呼吸ニハ横膈膜及腹筋モ之ニ與ル

其型式ニ胸式、腹式及胸腹式アリ

第四十六　呼吸數ハ大人ニ在リテハ一分間ニ十五乃至二十回ナリ

第四十七　深呼吸ヲ行フトキハ通常ノ呼吸ニ與ラサル諸筋モ之ニ參與スルヲ以テ屢〻深呼吸ヲ行フハ勞働時劇シキ呼吸ヲ爲ストキニ利アルノミナラス消化及循環作用ニ效アリ

1681

アジア歴史資料センター

第六章　泌尿器ノ作用

第四十八　泌尿器ハ腎、輸尿管、膀胱及尿道ヨリ成ル

血液中尿トナルヘキ成分ハ腎ノ毛細管ヲ通過中濾出セラレ輸尿管ヲ經テ膀胱ニ集リ尿道ヨリ排泄セラル

第七章　神經ノ作用

第四十九　外界ノ現象ハ眼、耳、皮膚等ノ知覺神經ニ依リ腦ニ達シテ知覺シ判斷セラレ意志ハ運動神經ニ依リ主トシテ筋ノ運動（動作、言語等）ニ依リ發表セラレ之ニ要スル時間ヲ反應時間ト云フ、各個人ノ性質、教育、職業、體力等ニ依リテ異ナルモ練習ニ依リテ鋭敏ナラシム

1682

アジア歴史資料センター

ルコトヲ得ヘシ、疲勞スレハ反應時間遲延スルヲ常トス

第八章　皮膚ノ作用

第五十　皮膚ハ寒冷ニ遇ヘハ其血管收縮シ溫暖ニ遇ヘハ血管擴張シ且汗ヲ分泌シテ體溫ヲ調節ス、又肺ト同シク一種ノ呼吸作用ヲ營ミ炭酸瓦斯等ヲ排泄ス、故ニ皮膚不潔ナルカ被服適當ナラサルトキハ其作用ヲ妨ケ健康ヲ障害スルコトアリ

1683

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

1685

第三編　被服及裝具

第一章　被服

第五十一　被服ノ效用ハ主トシテ寒暑ニ對シ體溫ヲ調節スルニ在リ

第五十二　被服ヲ著用スルトキハ皮膚トノ間ニ空間アリ、此空氣ハ地質ノ氣孔ヲ通シ外氣ト交換ス、故ニ地質水分ヲ含ミ塵、垢アリテ通氣ヲ妨クルトキハ體溫ノ調節害セラレテ健康ヲ障害ス

第五十三　被服ハ身體ニ適合スルヲ要ス

適合ノ程度ハ各人ニ就キ左ノ各項ヲ考慮シ其號、文數ヲ定ムルヲ要ス

一　帽ノ小ナルモノハ頭圍ヲ壓シテ頭ノ血行ヲ妨ク（帽ノ場目ハ換氣ノ用ヲ爲ス）

アジア歴史資料センター

二、衣及襦袢ノ狹キモノハ胸部ヲ壓シテ呼吸運動ヲ妨ク

三、襟ノ狹クシテ高キモノハ頸部ニ於ケル血管ヲ壓シ血行ヲ障碍ス又襟布ハ首ノ摩擦ヲ防キ塵、垢ヲ吸著スル用ヲ爲ス

四、皺ノ窮屈ナルモノハ肩ノ運動及上肢ノ血行ヲ妨ケ且呼吸運動ヲ制限ス

五、袴及袴下ハ腰部、股部、膝部ノ適合良好ニシテ歩行、騎乘、蹲踞、跳躍等ニ支障ナキヲ要ス

六、脚絆ハ下肢ノ運動ヲ輕快ナラシメ靴ノ上口ヲ密閉シテ土砂、雨水等ノ入ルヲ防キ且防寒ノ用ヲ爲スモ之ヲ卷クコト强キニ過クルトキハ下肢ノ血行ヲ妨ケ痛ヲ感シ疲勞ヲ早ムル虞アリ

七、靴ハ最適合ヲ要ス

アジア歴史資料センター

1687

イ　靴ノ寛ク大ニ過クルトキハ歩行ニ障アリ、靴ノ狭小ナルトキハ足ノ血行ヲ害シ疲労及靴傷ノ因ヲ爲ス

足ハ踏著クルトキハ穹窿扁平トナリ長軸（踵趾ト踵トヲ連ヌル線）ハ約十分ノ一延ヒ幅（趾根部）モ亦増スヲ以テ靴ハ此姿勢ニ適セサルヘカラス

ロ　踵（カヽト）ハ其高サ適度ナラサルヘカラス、高キニ過クルトキハ身體ノ重點足ノ前方ニ作用シ足ノ穹窿部ノ負擔増加シ疲労ヲ來シ易ク低キニ失スレハ重點後方ニ偏シテ歩行ニ労多ク又踵著シク歪メルトキハ靴傷ヲ生シ易シ

月形革（柱（コヽ）形革）ノ内面ハ平滑ナラサルヘカラス、否ラサレハ靴下ヲ損シ且靴傷ヲ生シ易シ

アジア歴史資料センター

1688

ハ後革ハ踵ノ彎曲ニ一致シアラサルヘカラス、又其革硬キトキハ足ノ屈伸ヲ妨ケ「アヒレス」腱鞘炎及靴傷ヲ生ス

ニ砂除革ハ土砂等ノ入ルヲ防クモノナリ

ホ靴ノ尖端ハ狹カラスシテ趾ノ位置ヲ自然ニ保チ運動ヲ妨ケサル程度ヲ良シトス

ヘ靴底ハ平坦ニシテ且地表ノ凹凸ヲ容易ニ感セサル厚サヲ有セサルヘカラス

トロ長靴ノ筒モ狹キニ失スレハ緊縛シ疲勞シ易シ、又其長サ膝部以上ニ及フトキハ膝ノ運動ヲ妨ク

第五十四 被服ハ常ニ破綻等ニ注意スルヲ要ス

被服ノ破綻ヲ速ニ修理スルハ被服ノ性能ヲ良好ニ保持スル所以ナリ

1689

一　衣袴ノ破綻ハ被服ノ效用ヲ減スルモノニシテ殊ニ防寒被服等ハ少シノ破綻モ健康ニ影響スルヲ以テ最注意ヲ要ス

二　靴ノ破損ハ其輕微ナル間ニ速ニ修理シ且其修理ニ當リ內面ニ凹凸ナキコトニ注意スルハ靴傷ヲ防キ行軍力ヲ維持スルニ最必要ナリ

三　襦袢ノ修理ニハ裝具ノ負荷ニ當リ摩擦ノ爲昏ニ損傷ヲ起ササルヤ如ク注意スルヲ要ス

四　袴下ノ修理ニハ特ニ乘馬隊ニ於テ深キ注意ヲ拂ヒ鞍傷ノ豫防ニ努ムヘシ

第五十五　被服ハ常ニ之ヲ清潔ニ保持セサルヘカラス

被服ハ外ヨリハ空中ノ塵埃(病原菌ヲ含ム)等ヲ附著シ內ヨリハ皮膚ヨリノ排泄物(汗、皮脂、垢等)ヲ吸著シ換氣ヲ妨ケ且汚物ノ分解ニ因リ

アジア歴史資料センター

1690

有害物ヲ生シ臭氣ヲ放ツニ至ル、故ニ被服ハ屢〻刷毛ヲ用ヒ或ハ叩キテ塵ヲ除クヲ要ス、又時々日光ニ曝シテ乾燥セシメ或ハ洗濯ヲ行ヒテ汚染ヲ除カサルヘカラス、汚染ハ季節、教練等ニ因リ其度ヲ異ニスルモ常ニ注意ヲ要スルモノハ靴下、襟布、褌袢、袴下、枕覆等ナリ

洗濯ニ當リテハ褌袢ハ襟、腋、袖口ヲ、袴下ハ尻當、裾口ヲ特ニ注意スヘシ、襟布、枕覆ノ不潔ナルトキハ屢〻頸部ニ癤等ノ皮膚病ヲ生シ易シ

第二章　裝具

第五十六　直立スルトキハ重心骨盤腔内ニ在ルヲ以テ裝具類ハ成ルヘク其重心ニ近ク裝著シ且一局部ニ偏重スルコトヲ避クルヲ原則トス

第五十七　背嚢ヲ負フトキハ其重量主トシテ背ニ作用スレトモ其一部

アジア歴史資料センター

ハ吊革ニ依リ腰部ニモ作用ス、故ニ前紐革ハ均等ニ劍帶ニ張リアルヲ要ス

負革ハ其締方適度ナラサルヘカラス、緩ケレハ背竅動搖シ締メ過クルトキハ胸部ヲ壓迫スル不利アリ

第五十八 劍帶モ亦其締方適度ナラサルヘカラス、締メ過クルトキハ腹部ヲ壓シテ內臟ノ血行ヲ害シ兼ネテ呼吸作用ヲ妨ク

第三章　負擔量

第五十九 裝著セル被服、裝具、兵器等ノ重量ハ之ヲ負擔量ト云フ

負擔量ハ體重ノ約四〇%ナルヲ適當トス

負擔量ノ身體ニ及ス影響ヲ成ルヘク輕減セシムルニハ漸次輕キヨリ始

アジア歴史資料センター

量シテ之ニ慣レシムルト共ニ成ルヘク必要ナラサル重量ハ之ヲ省クヲ可トス

歩兵ノ負擔量概ネ左ノ如シ

	戰時ノ武裝	平素行軍時ノ武裝
夏	二六瓩(約七貫)	二一瓩(約五・五貫)
冬	二八瓩(約七・四貫)	二二瓩(約五・九貫)

1692

アジア歴史資料センター

1693

第四編　給養

第六十　人ハ心身ノ使用ニ因リ絶エス活力ヲ消耗ス、此消耗セラレタル活力ノ資源ヲ補給シ增加スルヲ給養ト云フ

第六十一　軍隊ノ給養ハ特ニ榮養ヲ主トシ簡易ナルヲ要ス

第一章　養素

第六十二　養素ニハ蛋白質、脂肪、含水炭素、水、鹽類及「ビタミン」(活素)等アリ

一種又ハ數種ノ養素ヲ含ムモノヲ食品ト云ヒ、食品ヲ調理セシモノヲ食物ト云フ

アジア歴史資料センター

一　蛋白質ハ生活細胞ノ基礎ヲ爲シ高熱及其他ノ影響ニ因リ凝固スル性アリ、肉類及豆菽類ハ之ニ富ム

二　脂肪ハ動植物界ニ存シ特ニ動物ニ在リテハ皮下及臓器組織ノ間隙ニ在リ

三　含水炭素ハ主トシテ植物界ニ存シ澱粉及糖類ノ總稱ナリ

四　水ハ飲料トシテ攝取セラルルノミナラス總テノ食物中ニ含マ

五　鹽類ハ鹽化「ナトリウム」(食鹽)、燐酸「カリウム」、炭酸「カルシウム」等トシテ食品中ニ含マル

六　「ビタミン」ニハA、B、C等アリ

イ　「ビタミン」Aハ肝油、牛酪、卵黄、牛乳、野菜類等ニ含マ

1694

アジア歴史資料センター

16975

ル、之ヲ缺クトキハ夜盲症等ニ罹リ易シ

ロ 「ビタミン」Bハ穀類ノ表層、豆莢ノ胚芽及表層、野菜、果實等ニ含マル、米ヲ精白トセハ糠及小米中ニ存スル「ビタミン」B減少スルヲ以テ脚氣ニ罹リ易シ

ハ 「ビタミン」Cハ新鮮ナル野菜、果實等ニ含マル、陳舊ノ野菜又ハ加熱セル食品ニハ存在セス、之ヲ缺クトキハ壞血病ニ罹リ易シ

第二章 食品

第六十三 食品ニハ動物性及植物性食品ノ二アリ

動物性食品ハ蛋白質及脂肪ニ富ミ其消化吸收良好ニシテ就中魚肉ハ消

アジア歴史資料センター

化良好ナリ

植物性食品ハ含水炭素ニ富ム、但豆類ハ脂肪及蛋白質ヲ多ク含有ス

植物性食品ニ含マルル木纖維ハ不消化ナルモ胃腸ノ蠕動ヲ昂メ便通ヲ促ス效アリ

第六十四 成熟セル果實類ハ「ビタミン」ニ富ミ且水分アルヲ以テ渴ヲ醫シ消化ヲ助クル效アリ、未熟ノ果物ハ下痢ヲ起シ易シ

第六十五 飲食物ニ一定ノ美味ヲ與ヘ食欲ヲ亢進セシメ或ハ精神ヲ興奮セシムルモノヲ嗜好品ト云フ

一 菲椒（タウガラシ）、胡椒（コセウ）、蓽（シヤウガ）、芥子（カラシ）、山葵（ワサビ）等ハ消化液分泌促進ノ效アリ

二 茶、珈琲、酒類、煙草等ハ之ヲ少量ニ用フルトキハ精神ヲ興奮シ疲勞ヲ忘レシムル效アリ

アジア歴史資料センター

1697

酒類ハ之ヲ多量ニ用フシハ自制心ヲ失ヒ時ニ罪ヲ犯シ、連用スルトキハ胃、肝、腎、心臓等ヲ損ヒ抗病力減退シ早老ニ陥リ短命ニ導カシム、其害子孫ニ及フコトアリ

第六十六 食品検査上ノ著眼點概ネ左ノ如シ

一 獸肉類　牛、豚、馬等ノ肉ニテモ新鮮ナルモノハ固有ノ鮮美色及香氣ヲ有シ觸ルルニ彈力アリ、筋繊維間ニハ霜降狀ニ脂肪ヲ交フ

陳舊ナルモノハ其色汚穢トナリ惡臭アリ、切斷面ハ綠色ヲ呈シ時々氣泡ヲ發スルアリ、食用ニ適セス

骨附ノ牛肉ニ在リテハ骨其他ニテ約五%廢棄分アリ

二 魚介類　鮮魚ハ角膜透明ニシテ鱗片固著シ鰓ハ鮮紅色ヲ呈シ指

アジア歴史資料センター

ニ歴ニ依リ彈力アリ[illegible]

貝類及章魚、烏賊類ハ其質硬クシテ粘液ヲ多ク被ラサルヲ良ト[illegible]

魚類ハ骨多クシテ鯖ハ約三七%、鰯ハ約三〇%ノ廃棄分アリ[illegible]

三 豆腐及其製品　豆腐ハ製造後夏季ニ於テハ約數時間以内ノモノヲ使用スヘシ、之ヲ貯フルニハ冷水ヲ用ヒ且屢〻水ヲ更新スルヲ可トス[illegible]

豆腐ノ酸味又ハ不快ノ感アルモノハ使用スヘカラス、又三%ノ食鹽水中ニ浮フモノハ不良ナリ[illegible]

焼豆腐ハ豆腐ノ古キモノヲ使用スルコトアリ又雁擬(ガンモドキ)ハ往々腐敗シ易シ、注意ヲ要ス[illegible]

アジア歴史資料センター

1699

四、卵、新鮮ナルモノハ通常五乃至一〇%ノ食鹽水中ニ沈下スル

五、蔬菜類ハ夏季陳舊ノモノニ水ヲ注キテ新鮮ナル如ク裝フコトアリ、注意スヘシ

六、罐詰類ハ罐ノ兩面膨隆シ且叩クニ鼓音アリ、又罐ニ龜裂小孔等アルハ不良ノ徵ナリ

七、開キテ汚穢色ヲ呈シ惡臭ヲ放ツモノハ不良ナリ

一、食品ノ生産地及運搬經路、取扱人等ニ就キ常ニ傳染病ノ關係ヲ調査スルヲ要ス

第六十七、 食品ハ一般ニ清潔ナル冷暗所ニ貯藏スルヲ可トス

第三章　養　價

アジア歴史資料センター

17700

第六十八 養價ハ通常温量ヲ以テ之ヲ示ス、一「カロリー」トハ水一「リットル」ヲ攝氏一度高ムルニ要スル温量ナリ、蛋白質、含水炭素ハ各、一瓦ニ付四・一「カロリー」、脂肪一瓦ハ九・三「カロリー」ノ温量ヲ生ス

第六十九 邦食ノ全温量ニ對スル各養素温量配當ノ比ハ概ネ蛋白質一三・七%、脂肪六・三%、含水炭素八〇%ニシテ蛋白質ハ其割合ヲ減スルモ其他ノ養素ヲ增加スルトキハ榮養上支障少ナシ

第七十 兵食ノ養價ヲ算定スルニハ食品及嗜品分析表ニ依リ少タトモ一週間以上ノ副食物ニ就キ廢棄量ヲ除キ一日平均ノ養價ヲ算出シ之ニ主食ノ養價ヲ加フヘシ

第七十一 平時ノ兵食ハ精米六〇〇瓦(四合二勺)、精麥一八六瓦(一合八勺)及副食物ニシテ歩兵一人ノ必要温量ハ不吸收分約六・四%ヲ加

アジア歴史資料センター

フレハ約三、〇〇〇「カロリー」ナリ、然レトモ勞働劇シキトキハ更ニ之ヲ增加スルノ要アリ

第七十二 戰時ノ尋常樣秣ハ二人一日精米四合五勺(六四一瓦)、精麥一合九勺(二〇〇瓦)、罐詰肉四〇匁(一五〇瓦)、食鹽三匁(一二瓦)、醬油「エキス」五匁(一九瓦)、野菜類、漬物類、調味品ニシテ其養價約二三、八〇〇「カロリー」ナリ

又携帶口糧ハ各人精米一日分六合(八五六瓦)(甲)又ハ「パン」一日分一八〇匁(六七五瓦)(乙)及副食物(罐詰肉四十匁(一五〇瓦)、食鹽三匁(一二瓦))ニシテ其養價約二、六〇〇「カロリー」ナリ

第七十三 給養ノ良否ハ養價ノ多寡、體重ノ消長、保健ノ狀況等ニ依リ之ヲ判定スルコトヲ得

アジア歴史資料センター

第四章　獻立

第七十四　一種ノ食品ニシテ所要ノ養素ヲ有シ共比率適當ナルモノハ殆ト稀ナリ、又人ニ依リ嗜好ヲ異ニスルヲ以テ各種ノ食品ヲ適當ニ配合スルヲ要ス

第七十五　獻立作成ニ就キ必要ナル事項概ネ左ノ如シ

一　所要ノ養價及「ビタミン」ヲ有シ且消化吸收ノ容易ナルモノヲ選フコト

二　兵業ノ種類及程度ニ應シ適當ナル食品ヲ選定スルコト

三　錢價(單位金錢ニテ購ヒ得ル食品ノ養價)ヲ顧慮シ成ルヘク養價大ナルモノヲ選定スルコト

1702

アジア歴史資料センター

四、季節ニ依リ食品ノ種類ヲ變更スルコト

例ヘハ冬季ニハ脂肪類ヲ增加スルカ如シ

五、變敗シ易キモノ又ハ一般ノ嗜好ニ適セサルモノヲ選ハサルコト

六、食品及調理單調ニ失セサルコト

若同一ノ食品ヲ連日使用スルトキハ其調理法ヲ變更スルコト

七、野外ニ於テハ携行ニ便ニシテ調理簡單ニ行ハルルモノヲ選フヘキモ特ニ養價ニ富ムモノナルコト

第五章　調理

第七十六　調理ノ目的ハ其味ヲ良ク消化吸收ヲ容易ニシ病原菌及寄生蟲卵ヲ殺滅シ外見及香氣ニ依リ食欲ヲ高メシムルニ在リ

1703

アジア歴史資料センター

第七十七　調理ニ當リテハ原料ノ廃棄ヲ成ルヘク減少セシメ養素ノ利用ニ努ムヘシ

第七十八　冷凍食品ハ冷藏庫外ニ於テハ腐敗シ易キヲ以テ成ルヘク速ニ調理スルヲ要ス

第七十九　野菜類ハ能ク洗滌シタル後調理シ要スレハ瑛メ「クロール」水ニ浸シ消毒スルヲ可トス

第八十　調理法ニハ煮沸法、混煮法、焙燒法、脂煮法、蒸炊法等アリ

第六章　炊事場及酒保

第八十一　炊事場ニ於ケル衛生ハ保健上重要ナル意義ヲ有シ炊事業務

アジア歴史資料センター

1705

ノ缺陷ニヨリ傳染病ヲ蔓延セシメ或ハ食中毒ヲ多發スルコトアリ、炊事場ハ常ニ清潔ニシ且排水ノ良好ナルヲ要ス、場内、倉庫及食器類、炊事具等ノ整頓清潔ニ注意シ且防蠅、防鼠ノ設備ヲ完全ニスヘシ

第八十二 炊事業務ニ服スル者ハ特ニ身體檢査ヲ行ヒタルモノヲ充テ常ニ其健康狀態ニ注意スヘシ

菌保有者ハ最危險ナリ

第八十三 用達商人ハ成ルヘク炊事場内ニ入ラシメサルヲ要ス、又其商人ノ健康狀態ニ注意シ且其居宅及附近ノ傳染病等ヲ調査スルコト肝要ナリ

第八十四 食品ヲ取扱フ者ハ清潔ナル作業前垂ヲ著用シ手指ヲ清潔ニ爲シ要スレハ消毒藥ニテ消毒スヘシ

アジア歴史資料センター

第八十五　俎及庖丁類ハ肉切用、野菜用、漬物用トニ厳ニ區分スルヲ要ス、是漬物ノ如ク共儘食スルモノアルヲ以テ防疫上注意ヲ要スレハナリ

第八十六　殘飯、殘菜ハ散亂セシメス成ルヘク早ク之ヲ營外ニ撤出スヘシ

第八十七　食物ノ分配ハ均等ナラシメ其発價ノ普及スルコトニ努ムヘシ、又之カ運搬ニハ昆蟲、塵芥等ニ依ル汚染其他保温ニ注意スヘシ

第八十八　野外ニ於ケル炊事場ハ成ルヘク給水所ニ近ク調理場ハ特ニ排水ニ注意シ且蠅、蚊類ヲ以テ地表ヲ覆ヒ努メテ泥濘ヲ避クヘシ

塵捨場ハ炊事場ヨリ距リ且風向、給水所ヲ顧慮スルヲ要ス

第八十九　酒保ノ衛生ハ前記炊事場ノモノニ準スヘシ、特ニ營外調製

1706

アジア歴史資料センター

品及出入商人ニ關スル注意ハ嚴密ナルヲ要ス

第九十 酒保ニ於テハ湯茶ノ供給ヲ潤澤ニシ且共用食器ハ其都度煮沸消毒ニ附シ成ルヘク割箸ヲ用フルヲ要ス

第九十一 酒保販賣ノ飲食品中必要ト認ムルモノハ食中毒檢査ニ供スル爲炊事場ノ檢査食ニ準シ保存シ置クヲ可トス（第二百七十七參照）

1707

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

1709

第五編　給水

第九十二　水ハ人體ノ約六〇％ヲ占メ主トシテ呼吸、腎、腸及皮膚等ヨリ排泄セラル、其量一日約二・七立（一升五合）ニ達ス

第九十三　飢餓ノ感ハ進ムニ從ヒ稍〻慣ルルニ至ルモ渇ノ感ハ水分ノ缺乏ト共ニ益〻劇シ、故ニ水ヲ絶ツハ食ヲ絶ツヨリモ尙困難ナリトス

第九十四　水ノ必要ナル量ハ歩兵一人ニ付飲用及炊事用ヲ含ミ一日約一〇・八立（六升）ヲ基準トス、水ニ乏シキ地方又ハ戰地ニ在リテモ一日五・四立（三升）以下ト爲サザルヲ可トス、馬匹ハ飲用及飼付用ヲ合シ約三七・九立（二斗一升）ヲ要ス

以上ノ他沐浴、洗濯用ヲ合スレハ一日一人平均約一四八・八立（八斗二

アジア歴史資料センター

升五合)ニシテ不足ナキ量ハ約一八〇・三立(一石)ナリ

第一章　水ノ種類

第九十五　雨雪水(天水)ハ天然水中其質最軟ニシテ洗濯ニ適スレトモ塵埃ヲ含ムコト多シ、之ヲ貯溜スルハ特別ナル裝置ヲ要ス

熱帶地方ニテハ天水ヲ集メテ使用スル處多シ、又雪ヲ化水スルトキハ約三分ノ一量ノ水ヲ得ヘシ

第九十六　地表水ハ有機物及細菌等ニ依リ汚染セラレ直接使用シ難シ

河川ニハ自淨作用アリ、長キ流域ヲ流下スルニ當リ日光及下等動物ニ依リ細菌喰盡セラレテ其數ヲ減シ有機質ハ變化シテ河底ニ沈降シ比較的清淨トナルモ下水ノ流注、汚物ノ投棄等ニ依リ汚染セラル

17710

アジア歴史資料センター

第九十七　地下水（地底水）ハ雨雪又ハ河川等ノ水ガ地中ニ滲透シテ濾過セラレ非又ハ泉ニ涌出スルモノニシテ概シテ清淨ナリ

第二章　飲料水

第九十八　飲料水ハ清冽、無色、無臭ニシテ快味ヲ有シ病原菌、有機物、腐敗分解產物、鑛毒及多量ノ鹽分等ヲ含有セサルモノヲ良トス

第九十九　人畜等ノ立入リシ形跡ナキ溪谷ノ水、山嶺ノ水及最近地方廳ニテ檢査シ其證明アル水等ハ其儘使用シ得ルコトアリ

第百　水道水及現ニ住民ノ使用シツツアル地底水等ハ飲料ニ適スルモ其汲上裝置適當ナラサルカ或ハ不潔物ノ混入セル虞アルトキハ淨水法ヲ行ハサレハ使用ニ適セス

アジア歴史資料センター

第百一　兵營及廠舍等ノ井ハ豫メ檢査ヲ施シ其使用ノ適否ヲ掲示セラレアルヲ以テ其區分ニ依リ使用スヘシ

第百二　淨水法ヲ施シタル水ハ其味稍〻不快ナルコトアルモ之ヲ使用スルコトヲ得

第三章　現場ニ於ケル水ノ判定

第百三　現場ニ於ケル水ノ判定ハ水質ノミナラス其周圍ノ狀況等ニ就キ周到ニ觀察シ且檢査スルヲ要ス

一　井ノ附近ニ肥料溜、糞坑、下水等アルモノ及井ノ使用者中ニ傳染病者アルトキハ不可ナリ

二　井ハ其壁緻密ニシテ側水ノ浸入ナキモノヲ可トス

1712

アジア歴史資料センター

管井ノ管壁不滲透質ナルモノハ佳良ナリ、井水ノ汲取方法ハ喞筒ヲ可トス、繩等ヲ吊下シテ汲上クルモノハ手指等ニ依リ汚染セラル

三　水温ノ變動著シキモノハ側水浸水ノ徵ニシテ不可ナリ

四　濁濁セル井水ハ地中ニ於ケル濾過ノ不充分ナルカ爲無機物（粘土、陶土等）ノ混在及有機物（木繊維、藻、細菌等）ノ混入ニ因ルモノニシテ共ニ直ニ飲料ニ適セス

五　著色セラレタル水ハ土質ノ影響又ハ有機物ノ混在アルニ依リ注意ヲ要ス

六　腐敗臭アル水ハ甚シク汚染セラレタル徵ナリ古井ノ水ハ蓋、壁、喞筒、導管等ノ朽廢ニ因リ異臭ヲ放ツコトアリ、又開放セシ井泉等ノ水ハ動植物ノ浸入繁殖ニ因リ徵樣、沼澤樣又ハ生臭キ臭氣ヲ帶

17713

アジア歴史資料センター

プルコトアリ、鐵ヲ多量ニ含ム水ハ屎、腐卵様ノ臭ヲ放ツコトアリ

七　水ノ味ノ快適ナルハ通常炭酸瓦斯ヲ含有スレハナリ

海岸地方ノ水ハ鹽分ニ富ミ鹹味アリ、多飲スレハ下痢スルコトアリ

八　水ノ反應ハ中性又ハ弱「アルカリ」性ナルヲ例トスルモ時ニ遊離炭酸ヲ含ミ酸性ヲ呈スルコトアリ

九　有機物ノ分解ニ因リテ生セシ亜硝酸、硝酸「アンモニア」等ヲ含有スルハ不可ナリ、此等ハ衛生部員ノ檢査ニ依ルモノトス

第四章　野外ニ於ケル給水

第百四　野外ニ於テ水ヲ得タルトキハ之ヲ飲用、飲馬用、雜用等ニ區

1714

アジア歴史資料センター

1715

分シ要スレハ監視兵ヲ配置スヘシ

溪川、泉等ハ其上流ニ人鳥ノ立入ルコトヲ嚴禁シ且沐浴、洗濯、汚水ノ流入等ニ注意スルヲ要ス、流水ヲ利用スルトキハ用水區域ヲ嚴守セシムヘシ

第百五 極寒地ニ於テハ凍結豫防ノ爲汲上管、貯水桶等ニ保温裝置ヲ施スヲ要ス

第百六 結氷セル河ノ中流ニ穿孔シ流水ヲ汲取ルコトアリ、汚水ノ浸入及浮游物ナキヲ以テ比較的清淨ナリ

凍氷ハ外見清淨ナルカ如キモ水質不明ニシテ且夾雜物ヲ含ムコトアルヲ以テ注意スヘシ

第百七 熱帶地ニ於ケル椰子ノ果實水等ハ飲用ニ適ス

アジア歴史資料センター

第百八　永ク使用セラレサリシ井水ヲ利用セントスルトキハ豫メ能ク汲出シタル後使用スルヲ可トス

第百九　野外ニ於ケル給水ニハ沸水罐及給水車等ヲ用フルコトアリ

第百十　駐軍等ニ當リテハ特ニ鑿井器ヲ用ヒテ井ヲ穿チ或ハ特別ナル給水裝置ヲ設備スルコトアリ

第五章　淨水法

第百十一　野外ニ於テ良水ヲ得難キトキハ淨水法ヲ行フ

第百十二　淨水ノ目的ハ夾雜物ヲ去リ病原體ヲ除クニ在リ

第百十三　淨水ニハ左ノ方法アリ

一　濾過法

17716

アジア歴史資料センター

イ、砂礫、木炭等ノ淨水層ヲ通シテ、夾雜物ヲ抑留スル法アリ

使用長キニ亙ルトキハ淨水層ヲ交換セサルヘカラス、本法ハ駐軍等ノ際ニハ適スルモ早急ノ用ニ應スル能ハス

ロ　簡易濾過法ニハ「フランネル」、毛布、麻布、鐵網等ヲ用フルコトアリ

ハ、岡崎式濾水器ハ胴部及漏斗管、「ネル」(又ハフェルト地)ヨリ成リ豫メ明礬ヲ以テ清澄法ヲ行ヒタル水ヲ濾過ス、其速度一時間約二七〇立(一石五斗)ナリ

其他石地式濾水器アリ

ニ、池、湖、河等ノ沿岸ヲ掘リ其側方濾過水ヲ得ル方法アリ

二　煮沸法

アジア歴史資料センター

煮沸ハ最簡易ナル淨水法ナリ、沸騰後五分間ニシテ諸種ノ病原菌ヲ殺滅シ有機物ヲ破壞シ「アルカリ」土類ヲ沈降シ不快ノ臭味ヲ減スルコトヲ得、然レトモ炭酸ヲ發散セシメ水ノ清涼味ヲ失フ不利アリ、故ニ茶又ハ炒麥等ヲ混シ香味ヲ附スルヲ可トス

三　藥物淨水法

藥物ノ化學的作用ニ依リ浮游物ヲ沈降セシメ且細菌ヲ殺滅スル法ナリ

イ　新鮮ナル「クロール」石灰(漂白粉)ヲ水ニ約二十五萬分ノ一(五石ニ付約一匁)ノ割合ニ加ヘ能ク攪拌シ十五分乃至三十分間以上作用セシメタル後飲用ニ供ス、若急ヲ要スルトキハ「クロール」石灰ヲ增加スヘシ

アジア歴史資料センター

17119

「クロール」ニ食鹽ヲ加フルトキハ殺菌力ヲ增ス、「クロール」石灰錠ヲ使用スルニハ豫メ濾過セル水九「リットル」(五升)ニ錠劑一箇ヲ加ヘ溶解後十五分間ヲ經テ使用ス

「クロール」臭アルモ飲用ニ障ナシ、除臭ノ爲次亞硫酸「ナトリウム」錠一箇ヲ加フルコトアリ、尙其他ノ淨水錠又ハ鹽素ヲ使用スルコトアリ

「クロール」含有製劑ニ「カポリット」「クロルアミン」等アリ

ロ　明礬ハ主トシテ水ヲ清澄ナラシムルニ用フ、通常水約三十六「リットル」(約二斗)ニ明礬四乃至三十二瓦(一匁乃至八匁)ヲ加ヘ能ク攪拌セル後放置シ其上澄液ヲ採取シ之ヲ濾過ス

アジア歴史資料センター

四　其他濾水器等ニ依ルコトアリ

1720

アジア歴史資料センター

17221

第六編　兵營及宿營

第百十四　兵營ハ兵員ノ多數起居スル家庭ナレハ其衛生狀態ヲ常ニ良好ナラシメ兵員ノ健康ヲ保持スルヲ要ス

第一章　兵舍

第百十五　兵舍內ノ空氣ハ舍外トノ溫度ノ差、風等ノ作用ニ依リ換氣孔、窓、壁、天井、床等ヲ通シ舍外ノ新鮮ナル空氣ト自然ニ交換シツツアルモ、舍內ニ多人數群居シ換氣十分ナラサルトキハ舍內ノ空氣ハ汚濁シテ一種ノ臭氣ヲ放ツニ至ル、是各人ノ呼氣及皮膚ヨリ發散スル瓦斯及水分等ニ因ルモノナリ、又衆人群居ノ室ニ入リテ不快ヲ感スル

アジア歴史資料センター

ハ空氣汚濁スルノ外室内ノ温度高ク體温ノ調節ヲ害スレハナリ

兵舍ハ其廣サニ應シ收容人員ヲ定メサルヘカラス、然レトモ豫後備兵ノ召集等ノ爲一時多數ノ人員ヲ收容セサルヘカラサル場合アリ、斯ル際ハ特ニ換氣ニ注意スルヲ要ス

兵舍ハ一人ノ氣容約十五乃至十六立方米、面積單獨室ハ六平方米、班ノ如キハ四乃至五平方米ヲ規準トシテ建築セラレアリ

換氣ハ一時間概ネ三回ヲ度トス其回數多キトキハ賊風ヲ感シ又冬期ナレハ保温困難ナル故占領氣容十分ナルヲ可トス、一側ノ窓ノ開放ニ依ル空氣ノ更新ハ内外温差ノ大ナルニアラサレハ比較的微弱ナリ、對側ノ窓或ハ扉ノ開放ニ依テ始メテ有力ナル更新ヲ得、通常ノ場所ハ五秒以内ニテ空氣殆ト完全ニ交換ス

1722

アジア歴史資料センター

17723

第百十六　室内ノ空氣惡臭ヲ放ツトキ或ハ掃除、舍内ノ運動等ニ依リ空氣汚染セラルルトキハ窓ヲ開キテ換氣ヲ爲ス要アリ

第百十七　日光ハ精神ヲ爽快ニシ身體ノ新陳代謝ヲ盛ニスルノミナラス細菌ヲ減殺スル力アルヲ以テ成ルヘク室内ニ射入セシムルヲ要ス然レトモ强キ直射光線ハ物ヲ見ルニ當リ視器ヲ害スルコトアルニ依リ窓掛ニテ之ヲ調節スルヲ可トス

第百十八　夜間ノ照明ニ用フル燈火中石油燈ノ如キ油煙ヲ多ク出スモノハ有害ナル瓦斯ヲ含ムヲ以テ注意スルヲ要ス

第百十九　兵舍ヲ煖ムル爲煖爐ヲ焚クニハ徐々ニ爲スヘシ、急ニ劇シク焚キテ煖爐ヲ紅灼セシムルトキハ換氣ヲ盛ニシ賊風入リテ感冒ノ原因ヲ爲スコトアリ、又煙ノ室内ニ漏ルルハ煙道ノ破損、煙筒ノ不具合

アジア歴史資料センター

及掃除ノ不良ニ因ルコト多シ

第百二十　煖爐ヲ焚クトキハ窓、扉等ヲ閉チテ焚クヘシ、又其開閉ニ注意シ室内ノ温度ヲ成ルヘク永ク保ツコトニ努ムヘシ

第百二十一　煖爐ヲ焚クトキハ室内ノ空氣乾キテ咽ヲ害スルコトアルヲ以テ器ニ水ヲ盛リ蒸發セシメ置クヲ可トス

第百二十二　密閉シタル室内ニテ炭火ヲ用フルトキハ有毒瓦斯ヲ吸入シテ中毒スルコトアリ

第百二十三　舍内ノ塵ニハ往々病原菌ヲ有スルヲ以テ之ヲ飛散セシムルハ適當ナラス、先ツ窓ヲ開キテ通風シ床面等ニ沈降セシモノハ靜ニ取去ルヲ要ス

掃除ニ當リテハ口覆ヲ爲シ飛散スル塵ヲ吸入セサルコトニ注意スヘ

1724

アジア歴史資料センター

1725

シ

第百二十四　食物ノ殘片其他不潔ナルモノヲ室内ニ置クトキハ腐敗シテ空氣ヲ汚スヲ以テ成ルヘク速ニ之ヲ取除クヘシ

第百二十五　演習ヲ終リタルトキ或ハ外出シテ歸リタルトキ舍外ニ於テ被服ノ塵ヲ拂ヒ靴ノ泥ヲ落スコトハ舍内ヲ清潔ナラシムルニ必要ナリ

第百二十六　舍内ノ掃除ニ當リ雜巾及雜巾桶ハ床用ト食卓用トヲ區分シ之ヲ混用セシムヘカラス、又汚水ハ必ス溝ニ捨テ雜巾ハ時々日光ニ干スヘシ

第二章　營内附屬建物

アジア歴史資料センター

第百二十七　浴場ハ特ニ浴槽ノ清淨ニ努メ且浴水ノ量、温度、清濁等ニ注意スルヲ要ス、又患者用浴槽及小桶類ノ使用區分ヲ勵行シ病毒ノ傳播ヲ防クヘシ

第百二十八　洗面場、洗濯場ハ樋ニ注意シ水ノ供給ヲ潤澤ニシ且排水ノ流出ヲ良好ニスルヲ要ス

第百二十九　下水溝ハ時々掃除シ汚水ノ滯溜セサルコトニ注意スヘシ汚水ハ土質ヲ透シテ井水ニ入ルコトアルヲ以テ下水ノ排除ヲ勵行スルハ井水ヲ清良ニ維持スル所以ナリ、又下水及營庭附近ノ溜水ハ夏季蚊等ノ發生スル所トナリ疾病ノ源ヲ爲ス

第百三十　大便所ハ踏板ヲ汚ササル如ク注意スヘシ、否ラサレハ上圍ニ當リ靴又ハ被服類ヲ汚ス虞アリ、又自ラ手ヲ汚ササルコト必要ナリ

1726

アジア歴史資料センター

小便所ノ踏段ヲ汚スハ靴ヲ汚スニ等シ、又前壁ニ高ク尿ヲ注クトキハ尿滴附著シテ剝脱シ難キコトアリ

手洗水ハ時々更新シ常ニ之ヲ充タシ置クヘシ

第百三十一　糞尿、尿ハ其汲取ヲ勵行スヘシ、是不快ナル瓦斯ヲ發生スルノミナラス、土地ニ浸ミテ之ヲ汚シ或ハ蠅、鼠等ニ依リ兵營ヲ汚セハナリ

第百三十二　塵捨場ハ成ルヘク堆積スルコトナカラシムルヲ要ス、是蠅ノ發生ヲ豫防スル所以ニシテ防疫上極メテ必要ナリ

第百三十三　縫工場ニテハ塵埃ヲ飛散シ易キヲ以テ必要ニ應シ口覆ヲ裝著セシムルヲ要ス、又作業後洗面、含嗽ヲ爲スヲ可トス、被服類ヲ取扱ヒタルトキ又靴工場ニテ靴ノ修理等ヲ爲シタルトキハ作業終了後

17227

アジア歴史資料センター

必ス手ヲ洗フヲ要ス、之カ爲手洗桶、石鹸等ノ備付ニ注意スヘシ

作業衣ハ其洗濯ニ注意シ清潔ニ保持スヘシ

工場用劇毒藥ハ危險ナルヲ以テ其取締ヲ嚴ニスヘシ

第三章　宿營

第百三十四　兵營内ニテハ衞生上諸般ノ設備概ネ整ヒアルモ一歩營外ニ出ツルトキハ氣候、風土其他衞生狀態ノ變化ニ因リ不測ノ禍ヲ招クコトアルヲ以テ屯營ニ在ルトキニ比シ二層周到ナル注意ヲ爲スヲ要ス

第百三十五　設營ニ當リテハ附近ニ善良ニシテ豐富ナル飲料水アルコト及宿舍ト其近隣ニ現時若ハ近時傳染病ヲ發シタルコトノ有無等ニ注

1728

アジア歴史資料センター

意スヘシ

第一 舎營

第百三十六　舎營ニ當リ民家ヲ利用スルトキハ其家人ノ健康狀態ニ注意シ疑ハシキ所ハ之ヲ避クヘシ、又住民ノ使用シアル器具、寢具等ハ使用ニ當リ注意スルヲ要ス

場合ニ依リ寢具類ハ曝干シ食器類ハ之ヲ煮沸スルヲ可トスルコトアリ

第百三十七　舎營數日ニ亙ルトキハ宿舎内外ノ大清潔法ヲ行ヒ塵、不潔物等ハ遠ク宿營地外ニ撤ヒ爲シ得レハ燒却スヘシ、又蟲類ノ驅除ニ努ムヘシ

第百三十八　洋式家屋ノ煖爐、朝鮮ノ温突（オンドル）、支那ノ炕（カン）等ヲ使用スルト

1729

アジア歴史資料センター

キハ能ク其使用法ヲ指示シ有毒瓦斯ノ漏ルルコトナキヤウ注意スヘシ

第百三十九 宿營ノ衛生施設中特ニ注意スヘキコトハ排水及汚物ノ除去ナリ、尿、屎、塵埃等ハ一定ノ箇所ニ集メ又ハ坑ヲ掘リテ之ヲ埋メ便所ニハ排便毎ニ、塵捨場ニハ一日數回土砂又ハ灰ヲ撒キ汚物ヲ掩フヲ要ス

第百四十 厠、塵捨場ヲ設クルトキハ炊事場及井ヨリ成ルヘク遠クシ且風下ヲ選フヘシ

第二 廠營

第百四十一 廠營ハ衛生上ノ關係兵營ニ稍、似タレトモ其構造粗略ナレハ清潔法(排水、除穢)、煖室法(賊風、夜冷)、給水ニハ一層ノ注意ヲ要

1730

アジア歴史資料センター

1731

ス、又廠舎ハ引續キ他部隊ノ使用スルコトアルヲ以テ之カ清潔竝消毒ニ努メ累ヲ他ニ及スベカラス、陸軍演習場規則ニ於テ數團隊交代シテ同一廠舎ヲ使用セントスルトキハ一團隊ノ引揚後通常二十四時間ヲ經タル後之ヲ使用スル如ク規定セラレタルハ之カ爲ナリ

第三　露營

第百四十二　幕營ハ高燥、清潔ニシテ排水ノ良好ナル地ヲ選ヒ雜草ヲ刈リ地面ヲ平ニシ幕舎ノ周圍ニハ溝ヲ掘リテ土地ノ乾燥ヲ圖リ地面ニハ板、藁、防水布等ヲ敷キ或ハ臥床ヲ構築シ土地ヨリノ濕氣ヲ防クヘシ、又幕舎ノ周圍ニ土又ハ雪ヲ積ミテ風ノ入ルヲ防クコトアリ

第百四十三　天幕相互ノ距離ハ其高サノ約三倍以上ト爲スヲ可トス

アジア歴史資料センター

又天幕全部ニ共通スル道路、排水溝ヲ設クルヲ要ス、天幕ハ成ルヘク開放シテ通氣及日光ノ直射ヲ圖リ寢具、板、蓆等ハ屢〻日光ニ曝スヘシ、又時々幕舍内表層ノ汚レタル土ヲ去リ乾砂ヲ敷クヲ可トス

駐留永キトキハ一旦天幕ヲ撤シ土地ヲ日光ニ曝スカ又ハ移轉スヘシ

第百四十四　幕營ヲ爲ストキハ特ニ厠及塵捨場ヲ定メ遽リニ土地ヲ汚ササルヲ要ス

第百四十五　露營地ハ常風ヲ顧慮シ成ルヘク之ヲ障蔽スルカ如ク設クルヲ可トス、先ニ部隊ノ露營セシ地點ハ十分清掃シタル後ニ用フヘシ

敵軍ノ露營セシ地點ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ

第百四十六　塹壕、窖室等ニ宿營スルニ當リテハ特殊ノ病ヲ發シ易キヲ以テ所内ノ排水、濕氣ノ豫防等ニ注意シ且之カ清潔ニ努ムルヲ要

1732

アジア歴史資料センター

1733

ス

汚物ノ排除方法、煖室方法ニハ最注意ヲ要ス、毒瓦斯遮蔽幕アルトキハ能ク之ヲ檢シ常ニ之ヲ完全ナラシムルコトニ注意スヘシ

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

1735

第七編　身神ノ訓練

第一章　通則

第百四十七　軍隊ニ於ケル訓練ハ身神ヲ鍛錬シ武技及教練ニ習熟シ持久力ヲ養成シ以テ戰時ノ要求ニ適合セシムルニ在リ

第百四十八　人體ハ漸進的ニ順序正シク鍛錬スルトキハ筋骨ノ發育及體内諸器ノ機能ヲ向上セシムルモ急劇過早ナル鍛錬ハ體力之ニ伴ハサル者ニ在リテハ却テ健康ヲ障害スルニ至ル

第百四十九　訓練ハ日常ノ勞働ト其趣ヲ異ニス、日常ノ勞働ハ自由意志ニ依ルコト多キモ訓練ハ規律ノ下ニ行ハレ且被服ノ整齊、武器、裝具ノ負擔等ニ依リ更ニ其勞力ヲ增大スルモノナリ

アジア歴史資料センター

17136

第百五十　兵卒ハ入營前其境遇、職業、教育程度、性格、體質等區々ナルコト恰モ其容貌ノ異ナルカ如シ、故ニ訓練スルニハ先ツ各個人ニ就キ其固癖ヲ矯正シ身體各部ノ機能ヲ均齊ニ發達セシメ漸次進度ヲ向上シテ所期ノ目的ヲ達成スルヲ要ス

第百五十一　體質弱ク或ハ學力低キ兵卒ト雖之カ訓練ニ當リ班ノ編成ヲ考慮シ其指導ヲ適切ニ爲ストキハ一定期間ノ後ニ於テ能ク普通ノ能力ヲ具備セシムルコトヲ得ヘシ

第百五十二　學術科ノ進歩良好ナラサル兵卒中ニハ動モスレハ身體ニ異常アリテ之カ原因ヲ爲スモノアルヲ以テ所要ニ應シ身體檢査ヲ受ケシムルヲ可トス

第百五十三　總テノ運動ハ身神ヲシテ之ニ順應セシムル爲準備運動及

アジア歴史資料センター

調整運動ヲ適當ニ行フヲ要ス

過强ナル運動ヲ不確實ニ實施スルヨリモ寧ロ輕易ナル運動ヲ正シク行フハ却テ訓練ノ目的ニ副フコト多シ

第百五十四 訓練ニ當リ生スル外傷疾病ハ各個人ノ未熟ナルニ因ルヨリモ幹部ノ諸準備不充分ニシテ實施上指導ノ適切ヲ缺クニ因ルコトアリ、注意ヲ要ス

第百五十五 訓練ニ當リテハ各兵種ニ應シ各種運動ノ目的、精神ヲ理解シ克ク其要領ニ合スル如ク指導スルヲ要ス

第二章 各種運動

第百五十六 基本體操ノ目的ハ身體各部ノ發達ヲ圖リ其機能ヲ旺盛ナ

1737

アジア歴史資料センター

ラシメ以テ體力ノ基礎ヲ確立シ併セテ氣力ヲ養成スルニ在リ

即チ基本體操ハ身體各部ヲ均等ニ練磨シ固癖ヲ矯正シ關節ノ運動ヲ柔軟ナラシメ呼吸、血行等ノ諸機能ヲ增進ス、故ニ各兵卒ノ個性ヲ考慮シ先ツ輕易ナル運動ヨリ漸次强劇ナル運動ニ移リ時々其部位ヲ變換シ强弱各種ノ配合ヲ適切ニセサルヘカラス

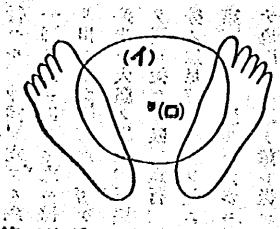
第百五十七　應用體操ノ目的ハ旺盛ナル氣力並體力ヲ演練シ之カ活用ノ方法ヲ演練シ以テ戰場ニ必要ナル運動能力ヲ養成シ體操ノ目的ヲ完成スルニ在リ、其實施ニ當リテハ多大ノ筋力ト旺盛ナル氣力トヲ要シ屢〻不慮ノ外傷ヲ起スコト少カラサルヲ以テ各個人ノ能力、服裝、豫行演習ノ徹底、器械ノ點檢等ノ諸準備ニ就キ周密ナル考慮ヲ拂ヒ要スレハ運動間適切ナル幇助ヲ爲スヲ要ス

1738

アジア歴史資料センター

1739

第百五十八 人ノ直立スルヤ身體ノ重心線ハ兩足ニテ形成スル支撐面(イ)内ニ落ツルモ頭首及軀幹ハ常ニ前方ニ傾カン(ロ)支撐面重心點ヨリ下シタル垂直線ノ落ツル位置トシ多少ノ動搖ヲ免レス、故ニ之ヲ制シテ直立不動ノ姿勢ヲ支持セントスルニハ上肢以外ノ諸筋ノ協同拮抗シテ諸關節ヲ固定セサルヘカラス、



殊ニ背嚢ヲ負ヒ擔銃ヲ爲ストキハ重心ハ上昇シ且後方ニ移動スルニ依リ平衡ヲ保持センカ爲筋力ヲ要スルコト著シク且精神緊張スルヲ以テ疲勞ヲ來シ易シ

第百五十九 歩行ハ下肢ノ交互運動ニ依リテ

アジア歴史資料センター

行ハル、體重ヲ支フル脚ヲ支撐脚ト云ヒ他ノ脚ヲ振動脚ト云フ、即チ一脚ヲ前ニ出シテ之ニ體重ヲ托シ（支撐脚）次ニ他ノ足ヲ輕ク前ニ振リ出シ（振動脚）地ニ著ケテ體重ヲ之ニ移ス

遠歩ハ大腿ノ擧上、下腿ノ伸展及上體ノ動搖ヲ制限スル等ニ依リ筋力ヲ要シ從テ呼吸、血行、消化作用ヲ增進スル利アリ、然レトモ往々過勞ノ爲足部ノ疾病ヲ起スコトアリ

第百六十 駈歩ハ遠歩ニ比シ歩調急速ナルヲ以テ一脚地ニ著クニ先タチ他脚既ニ地ヲ離レ從テ體ノ空中ニ浮動スル瞬間アリ、每歩ノ反動ハ強ク上體ニ傳達ス、駈歩及早駈ハ遠歩ニ比シ其動作劇甚ナルヲ以テ呼吸血行ニ著シキ影響ヲ及スモノナリ、殊ニ武裝シタルトキハ右手銃ヲ擔ヒ左手劍鞘ヲ握リ且背嚢、負革ニ依リ胸廓ノ運動ヲ妨クルヲ以テ疲

17440

アジア歴史資料センター

17441

勞ヲ增加ス、故ニ之カ練習ハ急劇ニ失スルコトナク漸次ニ進度ヲ高ムルヲ要ス

第三章　行軍

第百六十一　行軍ノ要領ハ全員ヲシテ豫定ノ時間内ニ努メテ疲勞ヲ輕減シ目的地ニ達セシムルニ在リ、行軍ニ於ケル體力ノ消耗ハ安靜時ニ比シ約三倍ニ當リ坂路等アルトキハ約五倍ニ當ル、サレト能ク訓練セラレタル者ハ體力ノ消耗訓練セサルモノニ比シ少ク持久力强シ、故ニ行軍ハ漸進的ニ距離及負擔量ヲ增加シテ之ニ習熟セシムルコト必要ナリ

第一　出發前

アジア歴史資料センター

第百六十二　行軍ノ前日ハ飲食ヲ慎ミ胃腸ヲ損セサルヤウ注意スヘシ

出發ニ當リ食思ナキ故ヲ以テ攝食セサルハ適當ナラス、此際些少ニテモ飲食スルトキハ克ク體力ヲ維持スルモノナリ

第百六十三　出發前夜ハ能ク眠ルヘシ、出發ニ當リテモ必要以外ニ早ク兵ヲ起床セシムヘカラス、眠不足ナルトキハ疲勞スルコト速ニシテ冬ハ凍エ易ク夏ハ暑ニ中リ易シ

第百六十四　被服裝具ハ豫メ能ク檢査シテ整頓シ殊ニ歩兵ニ在リテハ靴、靴下ノ手入、洗濯等ニ注意スヘシ

濫リニ私物ヲ携フルトキハ負擔ヲ重クシ疲勞ヲ增サシム

著裝ノ不適當ナルモノハ疲勞シ易シ

1742

アジア歴史資料センター

17443

第百六十五　水筒ニハ必ス湯茶ヲ充タシ置クヘシ

第百六十六　各兵ノ健康狀態ニ注意シ異常アルモノハ診斷ヲ受ケシムヘシ、輕微ナル異常者モ炎熱時ノ行軍等ニ際シテハ不測ノ累ヲ來スコトアリ

第百六十七　其他必要ニ應シ行軍間ノ衛生ニ關シ注意ヲ與フヘシ

第二　行軍間

第百六十八　行進間ハ能ク步度ニ注意シ且各伍ノ距離ヲ常ニ確實ニ保タシムヘシ、遽止、急進屢々ナルトキハ疲勞ヲ促スモノナリ

第百六十九　行軍間ノ休憩ハ狀況ニ依リ定ムヘキモ一回ノ時間ノ長キヨリモ其回數ノ多キハ體力ノ恢復ニ有利ナリトス（陣中要務令參照）

アジア歴史資料センター

第百七十　空腹ニハ最注意ヲ要ス、幹部ハ狀況ニ應シ著シク空腹ヲ覺エサルニ先タチ攝食セシムヘシ、又途中殘飯ヲ放棄セシムヘカラス一塊ノ飯モ體力ヲ維持スルニ足ルコトアリ

第百七十一　水筒ノ湯ハ節約シテ飲マシムヘシ、眞ニ渴スルニアラスシテ水筒ノ湯ヲ屢〻飲ムハ惡シキ習慣ナリ、多ク飲メハ汗ノ出ツルコト益〻多ク湯スルコト愈〻大ナリ、途中湯茶ノ設備ナク止ムヲ得ス生水ヲ飲マントスルトキハ飲ムヘキ水ヲ指定スルヲ要ス（第五編第三章參照）

第百七十二　行軍間ハ喫煙ヲ節スルヲ可トス、多量ニ喫煙スルトキハ口湯ヲ覺エ咽頭ヲ刺戟シ且心臟ニ不良ノ影響ヲ及セハナリ

第百七十三　休憩中ハ成ルヘク背嚢ヲ卸シ帽ヲ脱キ靴及靴下ヲ檢シ狀況ニ依リテハ靴ヲ脱キ足ヲ洗ヒ靴下ヲ交換スル等ノコトヲ爲スヘシ

アジア歴史資料センター

17415

乘馬兵ニ在リテハ馬裝及各人ノ臀部、大腿、膝及袴下等ヲ檢シ必要ナル保護ヲ加フヘシ

頭及顏ヲ洗ヒ口ヲ嗽クハ氣力ヲ恢復スルニ利アリ、休憩中用便ヲ爲ストキハ其箇所ヲ指定シ濫リニ廣ク土地ヲ汚スヘカラス

夜行軍及大休憩ニ當リテハ休息時間ヲ利用シ眠ラシムルコトニ努ムヘシ

第百七十四 行軍間身體ニ異常ヲ生シタル兵卒ハ早ク之ヲ發見シ重篤ニ陷ラサルニ先タチ手當ヲ受ケシムヘシ

兵卒身體ニ異常ヲ生セシトキハ姿勢類レ頭ヲ俯シテ步行シ步度正確ナラス顏面或ハ潮紅シ或ハ蒼白トナリ冷汗ヲ流シ應答力ナキニ至ル

第百七十五 炎暑時ニハ暍病、寒時ニハ凍傷ニ注意スヘシ（第八編第四

アジア歴史資料センター

（參照）

第三　到著後

第百七十六　徒步兵ハ足、乘馬兵ハ脊部、大腿、膝部ノ手入ヲ十分ニ行フヘシ

第百七十七　濡レタル襠袴等ハ著換フヘシ、殊ニ疲レタルトキ濡レタル被服ヲ著用スルハ感冒ニ罹リ易シ

第百七十八　各兵卒ヲシテ爲スヘキコトヲ敏速ニ爲サシメ成ルヘク早ク休憩又ハ睡眠ニ就カシムヘシ、雜談、飲酒等ノ爲時ヲ費サシムヘカラス

アジア歴史資料センター

17747

第四章　劍術

第百七十九　劍術ハ精神ヲ鍛錬シ身體ヲ輕捷ニシ臂力、脚力ヲ增强シ呼吸及血行ヲ促進ス

第百八十　劍術ハ動作敏速ニシテ且身體ノ安定シアルヲ要シ其態度ニ寸隙ヲ許サス常ニ精神緊張シ身神ヲ勞スルコト過大ナルヲ以テ體力之ニ伴ハサル者ニ對シテ過劇ニ亙ルコトナキヲ要ス

第百八十一　劍術ノ實施ニ當リテハ幹部ハ竹刀、木銃殊ニタンポノ破損ノ有無、防具ノ良否、裝著ノ適否ヲ檢シ且實施スヘキ場所ハ成ルヘク平坦ナル箇所ヲ選定スルヲ要ス

第百八十二　劍術ニ依ル强劇ナル刺突ニ因リ往々不慮ノ外傷又ハ疾病

アジア歴史資料センター

ヲ起スコトアリ、又刺突ヲ受ケタル部ノ筋化骨スルコトアリ（第八編第一章第十一參照）

第百八十三　劍術防具特ニ面ハ汗及唾ヲ以テ汚サルルヲ以テ之カ共用ニ當リテハ各自手拭等ヲ用ヒテ汗ニ依ル汚染ヲ豫防シ使用後ハ甲手、胴ト共ニ直ニ曝干シ乾燥ヲ圖ルヘシ、又面及甲手ハ時々「フオルマリン」消毒ヲ施スヲ要ス、健康保護兵ニハ面ヲ各個ニ支給シ借クヲ可トス

第五章　馬術

第百八十四　馬術ハ身神ヲ鍛錬シ輕捷敏活ノ性能ヲ長育シ健康ヲ保持增進ス

第百八十五　乘馬ニ在リテハ體重ヲ鞍上ニ支持スルト共ニ腰部及下肢

1748

アジア歴史資料センター

17449

ノ筋作用ニ依リ身體ノ平衡ヲ保持スルモノニシテ騎乘ニ際シテハ單ニ筋肉ヲ勞スルノミナラス精神ヲ勞スルコト大ナリ

騎乘ノ初メ腰部及下肢ニ痛ヲ感スルハ之ニ慣レサルカ故ナリ

第百八十六 騎乘ノ障碍ヲ爲スモノハ鞍傷ナリ、故ニ先ツ騎乘ニ先タチ鞍ノ點檢ヲ細密ニ爲スノ外被服ノ皺襞等ニ注意シ摩擦ヲ少カラシムヘシ、會陰(エイン)部及大腿內側、跨間ノ如キハ常ニ清潔ニスルヲ要ス（第八編第二章第二參照）

騎銃ヲ負フトキハ銃ニ依リ背ニ强キ撞突ヲ及ササル如ク注意スルヲ可トス

第百八十七 落馬又ハ馬ニ蹴ラレタル外傷ハ外觀上輕症ナルニ拘ラス往々深部ノ內臟ヲ損傷シ生命上危險ナルコト少カラス、故ニ濫リニ動カスコトナク速ニ診斷ヲ受ケシムルヲ要ス

アジア歴史資料センター

17750

第百八十八　馬繋場又ハ厩ニ於テ倒付又ハ手入中往々外傷ヲ蒙ルコトアリ、是馬ノ取扱方不適當ナルト不注意ナルトニ因ルコト多シ

第百八十九　馬ノ手入及厩ノ勤務ニ方リテハ被服及皮膚ハ著シク汚染セラレ外被病ヲ起スコトアルヲ以テ作業後之カ清潔ニ注意シ殊ニ手ヲ洗フコト最必要ナリ

第六章　射撃

第百九十　射撃ニ於テハ肉體的ノ勞働者シカラサルカ如キモ照準ヲ爲スニ當リテハ精神自ラ緊張シテ目標ニ集中シ身體ノ動搖ヲ抑壓セントスルノ努力大ナルモノアリ

第百九十一　射撃ノ拙劣ナル兵卒中ニハ往々視力ニ障碍アルモノアリ

アジア歴史資料センター

1751

故ニ視力檢査ノ結果ノ成績ニ注意スルヲ要ス

第百九十二 小銃ノ空包射擊ニ於ケル危險距離ハ二・五米ニシテ人體ハ銃口前三十糎以上ニテハ皮膚ヲ損傷セラルルニ過キサルモ三十糎ヨリ十糎ノ間ニテハ胸壁、腹壁等ハ貫カレテ內臟ニ致命傷ヲ與ヘラレ十糎以內ニ在リテハ軟部、內臟共ニ甚シク破壞セラレ骨ハ粉碎セラル

演習令ニ於テハ演習ノ特性ニ鑑ミ發火距離ヲ規定セラレアリ

第百九十三 棚杖ヲ銃身ニ入レ又ハ銃口蓋ヲ裝セル儘空包ヲ發射スルトキ意外ノ損傷ヲ人ニ與フルコトアリ、射擊實施ニ當リ注意ヲ要ス

第百九十四 火砲ノ空包射擊危險距離ハ約百米ニシテ之ヨリ近キトキハ往々內臟甚シク損傷セラレ或ハ四肢捏斷セラルルコトアリ、注意ヲ要ス

アジア歴史資料センター

第七章　游泳

第百九十五　游泳ハ其運動陸上ノ駈歩ニ匹敵シ身體各部ヲ動カシ殊ニ呼吸及血行ニ著シキ影響ヲ及スモノナリ、游泳適度ナルトキハ身神鍛錬ニ效アリ

第百九十六　游泳場ヲ選定スルニハ水流、水質、水深、水底等ニ注意シ附近ニ於ケル傳染病ノ有無ニ顧慮スルヲ要ス

第百九十七　水中ニ於テハ體温ヲ奪ハルルニ依リ疲勞ヲ感スルコト少キモ之ヲ覺ユルトキハ疲勞已ニ高度ニ達セシ徵ナリ

第百九十八　游泳ヲ實施スルニ當リ兵卒中健康障碍アル者ニ就キ更ニ診斷ヲ受ケシメ殊ニ呼吸器、心臟、耳等ニ障碍アル者ニ注意スヘシ

1752

アジア歴史資料センター

17533

第百九十九　滿腹時及空腹時ハ游泳ヲ避クベシ、又入水前ニハ飲酒スベカラス、是滿腹時及空腹時ニハ著シク抵抗力減シ酒ハ心臟作用ヲ弱ムレハナリ

第二百　入水前ニハ適度ニ體操等ノ準備運動ヲ實施スルヲ要ス、是筋及關節ヲ調整スル所以ナリ、斯クテ徐々ニ入水シ身體ヲ冷却スルヲ要ス

第二百一　耳ニ木綿綿ヲ輕ク挿入スルハ耳病ヲ豫防スル效アリ

第二百二　游泳中口ニ水ヲ含ミテ吐クカ如キハ不潔ニシテ疾病傳染ノ機會ヲ與フルコトアリ

第二百三　游泳後ハ能ク全身ヲ擦拭シ適度ノ體操ヲ實施スルヲ要ス

海水游泳後ハ淡水ヲ以テ洗フヲ可トス

第二百四　游泳ニ慣レサル者ニハ周密ナル注意ヲ以テ教導シ習熟セル

アジア歴史資料センター

1754

者ニハ冒險ヲ監視スヘシ、是共ニ不慮ヲ豫防スル所以ナリ

第二百五　游泳中ニ發スル腓腸筋痙攣（コムラ返リ）ハ水温低キニ過クル時、疲勞セル時、過劇ナル運動後等ニ起リ易シ注意ヲ要ス

痙攣ヲ起シタル者ハ狼狽スルコトナク靜ニ局部ヲ按摩スルコトニ依リ之ヲ緩解シ得ルコトアリ

第八章　土工作業

第二百六　土工作業ハ天候、季節、作業時間特ニ土質及器具ニ大ナル關係ヲ有シ體力ヲ消耗スルコト多大ナリ

第二百七　土中ニハ創ヨリ體内ニ入リテ危險ナル疾病ヲ起ス破傷風菌等アリ、故ニ作業後ハ汚レタル手等ヲ能ク洗フヘシ、創ヲ生シタルト

アジア歴史資料センター

キハ小ナリト雖診斷ヲ受クヘシ

第二百八 土工作業ニ當リ器具ノ使用、投土ノ操作適當ナラサルカ爲肩胛關節ヲ障害シ或ハ脊椎骨ヲ損スルコトアリ

土崩等ニ因リ不慮ノ禍ヲ蒙ルコトアリ、注意ヲ要ス

第九章 爆破作業

第二百九 坑道内ノ爆破作業ニ當リテハ火藥ニ依ル瓦斯ノ爲中毒スルコトアリ

有毒瓦斯中主ナルモノハ酸化炭素ニシテ無色無臭ナルニ依リ知ラス識ラス之ヲ吸入シテ危險ニ陷ルコト多シ

第二百十 古キ穹窖又ハ坑道内ニ有毒瓦斯滯留スル虞アルトキハ先ツ

アジア歴史資料センター

新鮮ナル大氣ヲ充分ニ送リタル後入ルヘシ

第二百十一　爆破ノ際飛散スル木石等ニ因リ不慮ノ外傷ヲ受クルコトアリ

第二百十二　爆破ニ當リ大氣震動ノ爲鼓膜ヲ破ルコトアリ、故ニ口ハ開キアルヲ要ス、是鼓膜内外ノ氣壓ヲ平均シ鼓膜破裂ヲ防クニ利アレハナリ、又耳孔ニ栓ヲ爲シテ鼓膜破裂ヲ防クコトアリ

第二百十三　爆破ニ因リテ生セシ創ハ不潔ニシテ化膿シ易シ、速ニ手當ヲ受ケシムヘシ

第十章　疲勞

第二百十四　疲勞ハ業務ノ能率ヲ低下シ傷病ノ原因ヲ爲スコト多シ、

1756

アジア歴史資料センター

故ニ幹部ハ兵卒ノ疲勞ニ注意スルヲ要ス

第二百十五　疲勞ハ休息又ハ睡眠ニ依リテ快復スト雖其程度大ナルトキハ恢復困難ナルコトアリ

第二百十六　疲勞大ナルトキハ顏面蒼白トナリ無力不快ノ表情ヲ呈シ發汗ス、眼球ハ光澤ヲ失ヒ一點ヲ凝視シ或ハ屢〻視線ヲ轉ス、應答力ナク委靡動搖シ步行不確實、動作鈍重ニシテ多クハ渴ヲ訴フ

第二百十七　疲勞持續スルトキハ過勞ヲ來シ體重減退シ食思衰ヘ氣力消失シ安眠シ難ク記憶力減退シ屢〻精神朦朧トナリ頭重、眩暈ヲ來シ心悸亢進シ脈搏不整等ヲ起スコトアリ

第二百十八　特ニ認ムヘキ原因ナクシテ殘飯、殘菜ノ多キトキハ疲勞ニ考慮ヲ廻ラスヲ要ス

1757

アジア歴史資料センター

1758

第二百十九　疲勞過大ナラザルトキハ能ク眠ルヲ常トスルモ劇動後眠リ難キ者眠ノ安ナラサル者ハ注意ヲ要ス

第二百二十　疲勞久シキニ亙ルトキハ精神ニ異常ヲ來シ或ハ過敏トナリ或ハ遲鈍トナリ甚シキハ憂鬱トナル者アリ、注意ヲ要ス

第二百二十一　疲勞スルトキハ筋力衰ヘテ運動能力減スルノミナラス注意力減退シ動モスレハ不慮ノ外傷ヲ生スルコトアリ

第二百二十二　疲勞セシ身體ハ寒暑ニ對スル反應作用遲鈍トナルヲ以テ容易ニ感冒等ニ罹リ易ク一般ニ抗病力減弱スルヲ以テ諸種ノ疾病ヲ起シ易シ

第二百二十三　過勞ヲ豫防シ訓練ノ效ヲ收メンニハ能ク各個人ノ體質、能力ニ注意シ漸次訓練ノ程度ヲ高メ遂リニ過劇ナル運動ヲ强要ス

アジア歴史資料センター

1759

ルコトナク休息時間ノ配合、按配ヲ適切ニシ飲食ヲ適時ニ摂ラシメ睡眠ヲ十分ナラシムル如ク指導スルヲ要ス

第十一章　身體ノ保清

第二百二十四　身體ノ清潔ハ保健上重要ナル條件ノ一ニシテ其方法ハ皮膚ノミナラス爪、毛髮、口腔等ニ及フヲ要ス

第二百二十五　皮膚ヲ洗フハ塵埃及皮膚ヨリ分泌セラレタルモノ等ヲ除キテ其作用ヲ充分ニ營マシメ且皮膚病ヲ豫防スルニ在リ

第二百二十六　温浴ハ血行ヲ良クシ疲勞ヲ快復スルニ利アリ、入浴スルトキハ浴槽ノ外ニテ先ツ最汚レタル所ヲ能ク洗フヘシ、浴槽内ニテ垢ヲ擦ルトキハ浴水ヲ汚スヲ以テ必ス槽外ニ於テ行フヘシ

アジア歴史資料センター

1760

頭髮、頸、腋窩、陰部、臀部、手、足等ハ石鹼ヲ用ヒ最能ク洗フヲ要ス

第二百二十七 河川、湖沼等ニテ水浴ヲ行フトキハ傳染病及寄生蟲ニ感染スル危險アリ注意スヘシ

第二百二十八 入浴セサルトキニモ顏、頸、陰部、手、足等ハ少クトモ一日一回清拭スルヲ可トス、又行軍、宿營等ニテ水不足ナルトキハ濕布ノ清拭ヲ以テ洗滌ニ代フヘシ

第二百二十九 入浴後又ハ身體ヲ洗ヒタル後ハ皮膚ヲ能ク摩擦シ乾カシタル後被服ヲ著用スヘシ、斯クスルトキハ血行ヲ良クスルノミナラス感冒ヲ豫防シ得

第二百三十 手ハ汚レ易ク病原菌ヲ附著スルコト多クシテ之ヲ口腔、眼、鼻、皮膚等ニ傳フ、故ニ特ニ清潔ニ保ツコト必要ニシテ食前ニハ

アジア歴史資料センター

1761

毎回洗フヲ可トス

手巾ヲ常ニ携帶スルハ手ヲ清潔ニ保ツニ必要ナリ、指爪ハ通常一週一回、趾爪ハ二週一回之ヲ剪除スルヲ可トス、爪長キトキハ皮膚ヲ傷ツケテ病原菌ノ侵入ヲ容易ナラシム、爪ノ垢ニハ常ニ多數ノ病原菌ヲ含ム

第二百三十一 頭髮ハ屢〻刈リ且洗フヘシ

第二百三十二 齒ハ少クトモ一日一回齒刷子ニテ擦リ清潔ニ保ツヘシ、齒刷子ハ上下ニ擦ルヘシ、齒刷子ノ柄ニテ舌ヲ搔クハ害アリ

齒刷子ハ次回ニ使用スル迄ニハ乾燥シ置クヲ可トス、是濕ヒタルモノニハ細菌發育シ疾病ノ原因ヲ爲セハナリ、食後湯茶ニテ口ヲ嗽キ就寢前齒刷子ヲ用フルハ良キ習慣ナリ

口内ヲ不潔ニスルハ蝕齒、其他口内ノ病ヲ生スルノミナラス胃腸ヲ害

アジア歴史資料センター

第二百三十三、手拭ヲ共同ニ使用スルハ不可ナリ、適當ノ標示ヲ爲シ混用ヲ避クヘシ

手拭ハ常ニ之ヲ清潔ニシ成ルヘク乾カシ盥クヲ要ス、手拭ヲ吊シ乾カストキ周邊ノ不潔物ニ觸レサル樣注意スヘシ

1762

アジア歴史資料センター

1763

第八編　軍隊ニ多キ傷病及其豫防法

第二百三十四　軍隊ニ於テハ自ラ特有ノ傷病アリ、殊ニ隊ニ依リ兵業ニ應シ各〻異ナル傷病ヲ發生ス、故ニ幹部ハ其因テ來ル所ヲ識リ之ヲ未然ニ防クコトニ努ムヘシ

第二百三十五　傷病ハ早期ニ受診セシムルヲ要ス

輕微ナル傷病ト雖之ヲ放置シ適當ナル治療ヲ受ケサルトキハ遂ニ重症トナリ命ヲ失フニ至ルコトアルノミナラス徒ニ日數ト費用トヲ浪費シ教育ヲ妨ケ戰鬪力ヲ減ス

第二百三十六　患者ノ診斷區分及撰生法ハ其履行ヲ的確ナラシムルヲ要ス

アジア歴史資料センター

休養及摂生ハ傷病ノ治療ニ重要ナル影響ヲ及スモノニシテ其履行ニ缺クル所アルトキハ治療適切ナリト雖其效ヲ期シ難シ

第一章　教練及戰鬪ニ因リ起リ易キ外傷

第二百三十七　外傷ニハ挫傷、挫創、切創、刺創、銃創、砲創、爆創、捻挫、脱臼、骨折等アリ

第一　挫傷

第二百三十八　挫傷ハ顚倒又ハ撞突ニ因リ受ケタル傷ニシテ皮膚破レサルモ腫脹、疼痛アリ、時ニハ皮下ニ溢血シテ紫色トナル、往々骨折ヲ伴フコトアリ、腹部ヲ馬ニ蹴ラレタル時又ハ前方ニ倒レ彈藥盒ニテ

1764

アジア歴史資料センター

17665

強ク打チタル場合等ニ於テハ外部ニ著シキ變化ナキモ屢〻內臟ノ損傷ヲ伴フコトアリ、斯ル際ハ受傷時患者ハ多ク一時失神シ間モナク平靜ニ復スルモ數時間ヲ經スシテ顏色蒼白トナリ嘔氣、嘔吐ヲ催スコトアリ、是多クハ腸ノ破裂ヲ起シタル場合ナルヲ以テ安靜ヲ保タシメ飲食物ハ絕對ニ與フヘカラス、尿ニ血液ヲ混スルハ腎臟又ハ膀胱破裂ノ徵ナリ、患者ヲ濫リニ動カスヘカラス

凡ソ內臟ニ損傷ヲ受ケタル時其救命的手術ハ一刻ヲ爭フヲ以テ速ニ受診セシムヘシ

第二 挫創

第二百三十九 挫創トハ外力ニ因リテ生シタル創ニシテ皮膚破レ創緣

アジア歴史資料センター

挫滅ス、挫創ニ於ケルカ如ク骨折又ハ内臓損傷ヲ伴フコトアリ

第三　切創

第二百四十　切創ハ鋭利ナルモノニ因リ生シタル創ニシテ出血多キヲ常トス

第四　刺創

第二百四十一　刺創ハ鎗、剣等ノ刺突ニ因リテ生ス、内出血ヲ伴フコト多キヲ以テ創口小ナルモ危険ナリ

第五　銃創

1766

アジア歴史資料センター

1767

第二百四十二　銃創ハ小銃弾ニ因リテ生ス、弾丸ノ種類、射撃距離、受傷部位等ニ依リ軽重アリ、貫通銃創ニハ射入口ト射出口トアリ、射出口ハ射入口ニ比シ大ナルヲ常トス、盲管銃創ハ射入口ノミニシテ弾丸體内ニ留ルヲ云フ

第六　砲創

第二百四十三　砲創ハ砲弾、砲弾破片又ハ弾子ニ因リテ生ス、砲創ハ銃創ニ比シ大ニシテ惨酷ナルヲ常トス

第七　爆創

第二百四十四　爆創ハ手榴弾、爆弾等ノ爆裂ニ因リテ生ス、創ハ惨酷

アジア歴史資料センター

ニシテ火傷ヲ伴フコトアリ

第八　捻挫

第二百四十五　捻挫ハ不齊地ノ歩行、墜落、顚倒等ニ當リ關節ノ運動其範圍ヲ超エタルトキ生ス、局部腫脹、疼痛、運動障碍アリ、特ニ足關節ニ多シ、夜間及疲勞時等精神ノ緊張ヲ缺ク際ニ起リ易シ

平素關節ノ運動ヲ柔軟ナラシメ常ニ精神ヲ緊張シ注意周到ナルハ其豫防ニ效アリ

第九　脱臼

第二百四十六　脱臼トハ外力ニ因リ關節ヲ爲セル骨端轉位シテ舊ニ復

17768

アジア歴史資料センター

17769

セサルモノヲ云フ

脱臼セルトキハ疼痛アリ關節部變形シ運動著シク制限セラル、時ニ骨折ヲ伴フコトアリ、遽リニ整復ヲ試ムヘカラス

第十　骨折

第二百四十七　骨折トハ骨折レ又ハ龜裂ヲ生シタルヲ云フ、骨折部ハ變形シ劇痛アリ特ニ軋音ヲ發スルコトアリ、皮膚ニ創ヲ伴フモノハ化膿ノ虞アリ、運搬ノ際ハ骨折部ノ動搖セサル位置ト爲シ副木ヲ裝用シ固定繃帶ヲ施シテ骨折部ノ動搖セサル如ク爲スヘシ

第十一　化骨性筋炎

アジア歴史資料センター

第二百四十八 化骨性筋炎トハ劍術ニ因リテ左上膊又ハ左胸部ノ筋、乘馬兵ニ在リテハ大腿內面ノ筋腫脹シ硬結ヲ生スルヲ云フ、按摩、温浴ハ其治療ニ效アリ

第十二 創傷傳染病

第二百四十九 創ヲ放置スルトキハ病原體侵入シテ創傷傳染病ヲ起ス其主ナルモノ左ノ如シ

一 化膿性炎 創ヨリ膿ヲ分泌シ周圍發赤、腫脹シ熱感、疼痛アリ

二 丹毒 皮膚ノ發赤部迅速ニ擴大シ高熱ヲ發ス、顏面及頭部ノ病毒蔓延シタル時ハ全身症狀ヲ現シ危險ナルコトアリ

丹毒ハ危險ナリ

17770

アジア歴史資料センター

三、破傷風　破傷風ハ土中ニ在ル破傷風菌創ニ入リテ起ル、一定ノ潛伏期ヲ經タル後突然痙攣ヲ起シ多クハ死亡ス

第十三　戰鬪用毒瓦斯

第二百五十　戰鬪用毒瓦斯ニハ其作用一時性ナルモノト永キニ亙ルモノトアリ、多クハ特異ノ臭氣ヲ有スルモ時トシテ無臭ナルモノアリ、空氣ヨリ重ク地面ニ沿ヒテ風ノ方向ニ流レ森林、叢、凹地ニ留ルコトアリ、或ハ地中ニ浸ミテ其毒力ヲ永ク保有スルモノアリ

第二百五十一　毒瓦斯ニ因ル中毒症狀ハ瓦斯ノ種類、濃淡ノ度等ニ依リ一樣ナラス、或ハ眼ヲ刺戟シテ流涙セシムルモノ、或ハ鼻、喉、耳ヲ刺戟シテ噴嚏（クシャミ）、咳嗽（セキ）ヲ發生セシムルモノ、或ハ肺ヲ冒シテ窒息セシ

アジア歴史資料センター

ムルモノ、或ハ徐々ニ皮膚ヲ冒シ水疱ヲ生シ火傷様ニ糜爛セシムルモノ等アリ

第二百五十二 毒瓦斯ノ襲撃ニ對スル警報ハ定メラレタル號音又ハ記號ニ依リ之ヲ行ヒ個人防護ハ覆面ヲ裝シ靜ニ呼吸スルニ在リ、故ニ幹部ハ左ノ事項ニ注意スルヲ要ス

イ 覆面ハ各人ニ支給シ豫メ之ニ適合セシメ置クコト

ロ 覆面ハ時々之ヲ檢査シ其破損及防毒效力ニ注意スルコト

ハ 覆面ノ裝著法ヲ練習セシメ迅速、確實ナラシムルコト

ニ 覆面裝著後ノ呼吸法ヲ練習セシメ置クコト

ホ 駱援、狼狽スルトキハ呼吸促迫シ瓦斯ヲ多量ニ吸入スル虞アルヲ以テ努メテ沈著ニスベキコト

1772

アジア歴史資料センター

17773

ヘ　覆面ハ瓦斯ノ襲來去ルモ急速ニ之ヲ脱カサルコト、被服ニ浸ミ殘リタル瓦斯發散シテ中毒スルコトアレハナリ

第二章　行軍ニ因リ起リ易キ疾病

第二百五十三　行軍ニ因リテ生スル主ナル疾病ハ靴傷、鞍傷、足踵、腱鞘炎、骨膜炎、暍病、凍傷等ナリ（暍病及凍傷ハ第八編第四章參照）

第一　靴傷

第二百五十四　靴傷トハ靴ノ持續的摩擦ニ因リ足ノ一部分發赤シ或ハ水疱ヲ生シ或ハ皮膚破ルルニ至ルヲ云フ

第二百五十五　靴傷ヲ發シ易キ部位概ネ左圖ノ如シ

アジア歴史資料センター

第二百五十六　豫防ニハ次ノ誘因ニ注意スヘシ

一　足ノ不潔　足不潔ナルトキハ汗、垢ノ腐敗ニ依リ細菌繁殖シ皮膚弱クナリ靴傷ヲ起シ易シ

二　靴ノ不適合　足ニ適合セサル靴ハ靴傷ヲ起シ易シ、狹小ナルヘ

アジア歴史資料センター

1775

カラス、過大ナルヘカラス、又靴紐ヲ締ムルコト堅キニ過クヘカラス

三　靴ノ手入及修理不良　革質ノ硬化、靴底ノ歪メルモノ、釘頭ノ突出、砂塵ノ混入等ハ靴傷ヲ起シ易シ

四　靴下ノ不良　不潔ナルモノ、濕潤セルモノ、穿靴ノトキ皺襞ヲ生セルモノハ靴傷ヲ起シ易シ

五　其他道路ノ不良（凸凹著シキ道路、硬固ナル道路、砂礫多キ道路等）歩度ノ伸長、負擔量ノ增大等ハ靴傷ヲ起シ易シ

第二百五十七　靴傷皆ハ好發部位ニ塗ルヲ要ス

第二百五十八　行軍中休憩時靴下ノ皺襞ヲ延ハシ砂塵ヲ去リ又ハ脱靴シテ足ヲ冷却シ趾間ヲ清潔ニシ按摩ヲ爲ストキハ疲勞ヲ癒スト共ニ靴

アジア歴史資料センター

傷豫防ノ效アリ

第二百五十九　宿營ニ就キタルトキハ能ク足ヲ洗ヒ乾キタル布ヲ以テ拭フヘシ

第二百六十　靴傷ヲ生シタルトキハ衛生部員ノ處置ヲ受クヘシ、靴傷ヨリ皮下蜂窠織炎等ヲ起スコトアルヲ以テ輕微ナル中ニ處置スルヲ要ス

第二　鞍傷

第二百六十一　鞍傷ハ鞍ニ依リ皮膚ニ持續性ノ摩擦加ハルニ因リテ生ス、其好發部位ハ臀、大腿及膝ノ內面等トス

第二百六十二　鞍傷ノ豫防ニハ騎座不正、皮膚及袴下ノ不潔、袴下ノ皺襞、鞍ノ修理不良等ノ誘因ニ注意スヘシ

1776

アジア歴史資料センター

第二百六十三　休息時ニハ鞍ノ位置ヲ正シ袴及袴下ノ皺襞ヲ去リ宿營ニ就キタル時ニハ好發部位ヲ清潔ニスヘシ

第二百六十四　鞍傷ヲ生シタルトキノ處置ハ概ネ靴傷ニ同シ

第三　足腫

第二百六十五　足腫トハ行軍、演習等ノ後足ノ腫レ痛ムヲ云フ、骨折ニ因ルコト多シ

不齊地上ノ行軍、跳躍等ハ其誘因トナルモ足筋鍛錬ノ不充分、靴ノ不良、疲勞、負擔量多キモ亦其因ヲ爲スヲ以テ注意スヘシ

第四　「アヒレス」腱鞘炎

アジア歴史資料センター

17778

第二百六十六　「アヒレス」腱鞘炎トハ行軍、演習等ノ際足ノ使用過度ナルトキ「アヒレス」腱部ニ急性炎症ヲ起スモノニシテ同部腫脹シ疼痛、歩行障碍アリ、行軍、演習ニ慣レサル者ニ多キヲ以テ之カ豫防ハ漸次教練ニ習熟セシムルニ在リ

第五　脛骨骨膜炎

第二百六十七　脛骨骨膜炎トハ行軍、演習等ノ際下肢ノ使用過度ナルトキ脛骨骨膜ニ急性炎症ヲ起スモノニシテ下腿腫脹シ疼痛アリ、歩行困難トナル、行軍、演習ニ慣レサル者ニ多キヲ以テ之カ豫防ハ第二百五十六ニ同シ

第三章　給養ニ因リ起リ易キ疾病

アジア歴史資料センター

17779

第二百六十八　人體ニ必要ナル發素ヲ缺クトキハ特殊ノ疾病ヲ惹起ス其主ナルモノハ脚氣及壞血病ナリ

第一　脚氣

第二百六十九　脚氣ハ發素中「ビタミン」Bノ缺乏セル食物ヲ攝ルトキ罹リ易シ、胚芽米、半搗米及麥中ニハ「ビタミン」Bヲ含ムヲ以テ脚氣豫防ニ效アリ、故ニ軍隊ニ於テハ主トシテ米麥飯ヲ用フ、我軍ニ於テハ過去數次ノ戰役ニ於テ多數ノ本病患者ヲ發生シ戰鬪力ヲ減少セリ

第二百七十　脚氣ニ罹リシトキハ下腿腫脹シ知覺異常ヲ生シ歩行困難トナリ僅ノ運動ニテモ脈搏增加ス、脚氣患者ハ突然重症トナリ易ク所謂脚氣衝心ヲ起スコトアルヲ以テ速ニ受診セシムヘシ

アジア歴史資料センター

1780

第二　壞血病

第二百七十一　壞血病ハ糞素中「ビタミン」Cノ缺乏セル食物ヲ攝ルトキ罹リ易シ、新鮮ナル野菜類及果物等ニハ「ビタミン」Cヲ含ムコト多シ籠城、遠征又ハ長キ航海ノ際本病者ヲ多發セシコトアリ

本病ニ罹リシトキハ全身衰弱シ齒龈ニ出血シ易ク皮膚ニ斑點ヲ生スルコトアリ

第二百七十二　豫防ニハ新鮮ナル野菜、果物等ノ供給ヲ圖リ永キ駐軍等ニ在リテハ戰場耕作ノ實施ヲ要スルコトアリ

第三　食中毒

アジア歴史資料センター

17821

第二百七十三　食中毒ハ主トシテ夏季獣肉、魚介、鷄卵、牛乳、豆腐、蒲鉾及漬物等ニ附著セル病原菌又ハ毒素菌等ニ因リ生ス、其他銅製ノ食器未熟ノ果物、蕈及蛋白質ノ分解產物等ノ毒物ニ因リ起ルコトアリ

第二百七十四　病原菌ハ煮沸ニ依リ滅殺シ得ルモ毒素又ハ毒物ハ加熱ニ依リ必スシモ其毒性ヲ失フモノニアラス

第二百七十五　食中毒ハ食後數時間稀ニ一乃至二日ヲ經テ起ルモノニシテ嘔吐、下痢、腹痛、發熱等ノ症狀アリ、其應急處置ハ衛生法及救急法ヲ參照スヘシ

第二百七十六　食中毒豫防ニハ食品ノ選擇ニ注意シ調理ノ際ハ能ク煮又ハ炙リ調理後之ヲ汚染又ハ變敗セサル如ク取扱ヲ注意スヘシ

第二百七十七　調理セル副食物ハ食中毒ノ檢査ニ供スル爲毎食後一食

アジア歴史資料センター

分ヲ清洗乾燥セル器物ニ盛リ檢査食容器ニ二十四時間存置スヘシ、六

第四章　氣候風土ニ因リ起リ易キ疾病

第一　暍病

第二百七十八　暍病ハ蒸シ熱クシテ風ナキトキニ劇動又ハ行軍ヲ行フ際起ルコト多シ(熱中病)、又强烈ナル太陽ノ直射光線ニ曝露スルトキニモ發生ス(日射病)

第二百七十九　暍病ノ徵候ハ發汗、顏面潮紅ヲ以テ始マリ次デ口渴、頭痛、眩暈(メマイ)アリ氣力衰ヘ胸內苦悶ヲ覺エ呼吸促迫シ後ニハ發汗急ニ停止シ應答不確實ドナリ步行蹣跚(マンサン)シ遂ニ卒倒ス、又人事不省トナリ痙攣

1782

アジア歴史資料センター

17783

ヲ起シ昏狂狀態トナル者アリ、重症者ハ暫時ニシテ死亡ス

第二百八十 暑病ノ豫防概ネ左ノ如シ

イ 氣候、風土ニ鑑ミ行軍、演習ノ計畫ヲ詳密ニシ行程、歩度、負擔量、被服、給水、食事、睡眠等ニ注意スヘシ

ロ 體質弱キ者、病後間モナキ者、食欲不振ノ者、行軍、演習ニ慣レサル者等ハ暑病ニ罹リ易キヲ以テ特ニ注意ヲ要ス

ハ 過勞、睡眠不足、飢渇、飲酒等ハ誘因トナルヲ以テ之ヲ避クルコトニ努ムヘシ

ニ 行軍、演習中ハ適當ノ休憩、脱帽、被服上部ノ開放、隊列ノ疎開等ニ注意スヘシ

ホ 行軍、演習間ハ暑病ノ徴候アル者ナキカニ注意シ之カ早期發見

アジア歴史資料センター

1784

ニ努ムヘシ

第二百八十一　喝病患者ハ背嚢ヲ卸シ被服ノ緊縛ヲ解キ風通良キ木蔭等ヲ選ビテ安臥セシメ頭ヲ高クシ扇子類ニテ風ヲ送リ全身ニ水ヲ注キ要スレハ人工呼吸ヲ施スヘシ、快復シタル後ト雖直ニ動カスヘカラス

第二　感冒性疾患

第二百八十二　感冒性疾患ハ主トシテ氣温及濕度ノ急變ニ因リテ體温ノ調節害セラルルトキ生ス、時ニ細菌ニ因リ多發スルコトアリ（第九編第八章第八參照）

第二百八十三　感冒性疾患ハ初期ニ於テハ急性鼻炎トナリ鼻塞リ鼻汁

アジア歴史資料センター

流レ或ハ急性咽頭炎トナリ咽頭發赤シ乾燥ノ感アリ、扁桃腺腫脹シ體溫上昇シ頭重、頭痛ヲ伴フ、急性氣管支炎ヲ發スルニ至レハ咳嗽、喀痰アリ、病勢進行スルトキハ急性肺炎ヲ起シ高熱アリ、食欲不振、呼吸困難ヲ起シ遂ニ心臟麻痺ニヨリ死亡スルコトアリ

第二百八十四 感冒性疾患ハ其初期ニ於テハ苦痛極メテ少キカ爲多クハ之ヲ放置スル傾向アルモ早期ニ受診スヘシ

第二百八十五 感冒ノ豫防ニハ皮膚ヲ鍛錬スルヲ要ス、日光浴、乾布摩擦、冷水摩擦等ハ皮膚ノ血行ヲ良クシ之ヲ强壯ニスルヲ以テ感冒豫防ノ效アリ

假眠及脫衾ハ體溫ノ調節適當ニ行ハレサルニ因リ感冒ニ罹ルコトアリ又發汗、溫浴後ハ體溫ヲ失フコト多キヲ以テ注意ヲ要ス

17785

アジア歴史資料センター

1786

第三　凍傷

第二百八十六　皮膚ヲ寒氣ニ曝露スルトキ其部ノ血行不十分トナリ皮膚發赤、腫脹シ瘙痒ノ感アリ、次テ水疱ヲ生シ更ニ甚シキトキハ壞疽ニ陷ル、之ヲ凍傷ト云フ

凍傷ハ指、趾、鼻尖、耳翼等ニ起リ易シ

第二百八十七　凍傷ノ豫防概ネ左ノ如シ

イ、手足ヲ清潔ニシ濕ヒタルトキハ能ク拭ヒ置クヘシ

濕リタル儘寒氣ニ曝ストキハ凍傷ニ罹リ易シ

ロ、被服殊ニ靴下、手袋等ヲ清潔ニシ乾燥セシムヘシ

ハ、靴ハ狹小ナラサルヲ可トス、是足ノ血行ヲ害スレハナリ

アジア歴史資料センター

1787

ニ　凍傷ニ罹リ易キ者ニハ手袋ヲ支給シ或ハ凍傷膏ヲ教練前又ハ入浴後ニ塗ラシムヘシ

ホ　寒時風強キトキノ行軍ニハ屢〻先頭及一側ノ兵ヲ交代セシムルヲ可トス

ヘ　乘馬隊ニ在リテハ屢〻下馬シテ歩行スルヲ可トス

ト　時々耳、鼻、手等ヲ摩擦シ休憩時ニハ屢〻足踏スヘシ、是血行ヲ良好ナラシメンカ爲ナリ

チ　凍傷ニ罹リシトキハ直ニ火ニテ煖ムヘカラス、先ツ其部ヲ十分摩擦シ後漸次温ムヘシ

第四　凍死

アジア歴史資料センター

17288

第二百八十八　極寒ノ地ニ在リテ强度ノ寒氣ニ遭遇スルトキハ寒冷ニ次テ倦怠ノ感ヲ覺エ精神朦朧トナリ睡眠ヲ催シ體溫下降シ漸次身體强剛トナリ遂ニ人事不省ニ陷リ(凍沍假死)死亡スルコトアリ、之ヲ凍死ト云フ

第二百八十九　凍死ノ豫防概ネ左ノ如シ

イ　空腹、睡眠不足、疲勞、負傷、酩酊ハ凍死ノ誘因トナルヲ以テ注意スヘシ

ロ　防寒被服ハ能ク適合セルモノヲ用ヒ破損セル箇所ハ之ヲ修理シ且裝著ヲ確實ニスヘシ

ハ　寒時ニ於ケル步哨ハ動哨トナリ靜止セサルヲ可トス

ニ　寒地ノ露營ニハ風ヲ遮ルコト最必要ナリ、入口ハ風向ニ反スル

アジア歴史資料センター

17789

・側ニ設クヘシ、之ニ依リ體温ヲ奪ハルルコト多ケレハナリ

ホ　雪中ニ露營スルトキハ雪ヲ掘リテ周圍ニ雪ノ塔壁ヲ作ルヘシ

ヘ　凍死假死ニ陷リタル者ハ急ニ煖ムヘカラス、先ツ雪又ハ冷水ニ浸シタル布ニテ輕ク全身ヲ摩擦シ身體柔軟トナリシ後寒冷ナル寢具ノ上ニ移シ乾キタル布ニテ全身ヲ摩擦シ要スレハ人工呼吸ヲ施スヘシ、凍エタル身體ハ脆キカ故ニ其取扱ハ丁寧ナルヲ要ス

覺醒シタルトキハ次第ニ温メ且眠ラシメサルヲ要ス

第五　雪盲

第二百九十　積雪ノ地ニ在リテハ雪ヨリ反射スル光線ノ爲視力ノ障碍ヲ起スコトアリ、其豫防ニハ眼簾又ハ黄褐色ノ眼鏡ヲ使用スヘシ

アジア歴史資料センター

第五章　不潔ニ因リ起リ易キ疾病

第二百九十一　身體及被服ノ不潔ニ因リテ起リ易キ疾病概ネ左ノ如シ

第一　癤及癰

第二百九十二　皮膚ノ一部發赤、腫脹シ疼痛アリ中央ニ黄色ノ膿點生ス、之ヲ癤ト云フ

膿點多ク炎症廣キモノヲ癰ト云フ、濫リニ之ニ觸レ又ハ膿ヲ壓出スルハ却テ病毒ヲ周圍ニ蔓延セシムル虞アリ

顏面ニ生シタルモノハ面疔(メンチャウ)ト稱シ危險ナリ、早期ニ受診スヘシ

第二　皮下蜂窠織炎

1790

アジア歴史資料センター

1791

第二百九十三　病原體皮膚ノ小創ヨリ侵入シ周圍ニ蔓延シテ發赤、腫脹、疼痛、發熱等ヲ起スコトアリ、之ヲ皮下蜂窩織炎ト云フ、之ヲ放置スル時ハ膿潰スルコトアリ、又病原體ハ漸次種々ノ組織、臟器ニ轉移シ遂ニハ全身ニ擴リ所謂敗血症ヲ起シ死亡スルコトアリ、指趾ニ來ルモノヲ特ニ瘭疽ト云フ

手足、被服ヲ常ニ清潔ニ保チ小創タリトモ放置セス早期ニ受診スヘシ

第三節　頑癬

第二百九十四　頑癬ハ寄生性病原體ニ因リテ起リ發汗ニ依リ皮膚濕潤セルトキ生シ易ク陰部、胸腹部等ニ發生スルコト多シ、瘙痒甚シク之ヲ掻把スルトキハ却テ增惡ス、局部ハ之ヲ清潔ニ保ツヲ要シ身體及被

アジア歴史資料センター

服ノ保清ハ豫防ニ效アリ

第四　汗疱疹（水蟲）

第二百九十五　趾間ニ瘙痒ノ感アリ往々皮下蜂窠織炎ノ原因トナル足特ニ趾間ヲ清潔ニシ靴下ノ洗濯ヲ勵行スルハ豫防ニ效アリ

第五　「トラホーム」

第二百九十六　「トラホーム」ニ罹ルトキハ結膜發赤シ顆粒生シ眼脂分泌多ク眼内ニ異物ノ感アリ、之ヲ放置スル時ハ角膜ニ波及シ視力ヲ障害ス、「トラホーム」ノ病原體ハ手拭、洗面器等ニ依リ傳播セラルルヲ以テ其混用ヲ避クヘシ

アジア歴史資料センター

1793

第六章　不攝生ニ困リ起リ易キ疾病

第二百九十七　暴飲、暴食ハ身體ヲ害フ甚ニシテ性病ハ國家社會ニ害毒ヲ流シ累ヲ後世ニ及スコト大ナリ

食物ハ之ヲ廢スレハ身體衰弱スルト雖性欲ハ之ヲ抑制スルモ敢テ健康ヲ害フモノニアラス、宜シク精神ヲ練リ妄念ヲ去ルニ努ムヘシ

第一　胃腸病

第二百九十八　胃腸病ニ罹ルトキハ食欲減シ、腹部ニ疼痛アリ、時ニ嘔吐、痙攣ヲ起シ下痢ヲ伴フコトアリ、

右下腹部ノ疼痛ハ盲腸様突起炎ナルコト多キヲ以テ速ニ受診セシムルヲ

アジア歴史資料センター

要ス

第二百九十九 胃腸病ノ豫防法概ネ左ノ如シ

一 暴飲、暴食ヲ慎ムコト

二 過冷、過熱ノ飲食物ヲ攝取セサルコト

三 腹部ヲ冷却セサルコト

四 腐リ易キ飲食物、未熟ノ果物、不消化物ヲ攝取セサルコト

五 飲食物腐リタル疑アルトキハ互ニ相戒メ之ヲ攝取セサルコト

六 生野菜、刺身、好ク煮エサル肉等ヲ攝取スルトキハ往々條蟲、十二指腸蟲、蛔蟲等ノ寄生蟲病ニ罹ルコトアルヲ以テ注意スルコト

第二 性病

1794

アジア歴史資料センター

1795

第三百　性病ニハ淋病、軟下疳及梅毒アリ、何レモ性交ニ依リテ傳染ス、賣笑婦ノ大多數ハ病毒ヲ有スルモ自覺症ヲ訴フル者少シ

第三百一　淋病ハ淋菌ニ因リテ起ル、初メ尿道口ニ瘙痒ノ感アリ、次テ膿ヲ洩シ排尿時甚シキ疼痛アリ、病勢進行スルトキハ副睾丸、膀胱、關節等ニ炎症ヲ及ス、膿眼ニ入ルトキハ失明スルコト多シ

第三百二　軟下疳ハ軟下疳菌ニ因リテ起リ初メ陰部ニ小ナル潰瘍生シ漸次大トナリ遂ニハ横痃ヲ續發シ疼痛アリ

第三百三　梅毒ハ梅毒「スピロヘータ」ト稱スル病原體ニ因リテ起ル初メ陰莖ニ小サキ硬結生シ(初期硬結)數週又ハ數箇月ノ後往々屋吸レ頭髮脱落シ皮膚ニ發疹ヲ生シ肛門糜爛スルコトアリ(第二期梅毒)、數年ノ後ニハ骨、筋等冒サル(第三期梅毒)、腦、脊髓冒サルルトキハ四肢ノ運

アジア歴史資料センター

1796

動障害セラレ精神ニ異狀ヲ來スコトアリ、病勢進行スルトキハ死亡ス

梅毒ハ病毒ヲ子孫ニ遺傳ス

第七章　其他ノ疾病

第一　肺結核

第三百四　肺結核ハ結核菌ニ因リテ起ル、結核菌ハ主トシテ患者ノ喀痰乾燥スルトキ菌ハ塵埃ト共ニ空氣中ニ飛散シ室内ニ在リテハ其周壁、天井、床等ニ附著シテ長ク生存ス

第三百五　結核患者ノ咳嗽スルヤ細菌ヲ含メル飛沫ハ前方數尺ノ範圍ニ飛散ス

アジア歴史資料センター

1797

第三百六　患者ノ食器、被服、寢具、防具等ヨリ傳染スルコトアリ、

第三百七　身神ノ過勞、感冒等ハ其誘因トナル

第三百八　肺結核患者ハ初期ニ於テハ著シキ變化ナキ爲氣付カサルコトアリト雖多クハ顏面蒼白ヲ呈シ食欲不振、全身倦怠ヲ覺エ疲勞シ易ク時ニ咳嗽、微熱ヲ伴フノミナラス屑凝リ盜汗ヲ訴フル者アリ病勢進行セル者ハ貧血ヲ呈シ榮養著シク衰ヘ體重減少シ咳嗽、喀痰繁ク體温上昇シ時トシテ痰ニ血液ヲ混スルコトアリ

第三百九　肺結核ハ國民減耗ノ主因タルノミナラス兵員減耗ノ主因タリ

第三百十　肺結核ノ豫防ニハ結核ニ對スル各自ノ抵抗力ヲ養ヒ病毒感染ノ機會ヲ避クルニ在リ、即チ身體ノ鍛錬、野外運動、身體、被服及

アジア歴史資料センター

室内ノ清潔、榮養ノ充足等ヲ計リ患者ノ早期發見ニ努メ以テ之ヲ隔離シ喀痰ハ大便所ニ投棄シ食器ハ個人專用ト爲シ被服、寢具、防具等ハ日光消毒又ハ藥物消毒ヲ行ヒ室内掃除ニ在リテハ鼻、口ヲ覆ヒ且成ルヘク塵埃ヲ飛揚セサルヤウ注意スヘシ

第二　胸膜炎（肋膜炎）

第三百十一　胸膜炎ハ過劇ナル運動反覆セラルルトキ起ルコトアリト云フモ元來結核性素質アル者ニ起リ易シ

第三百十二　初メ胸部ニ刺痛ヲ覺エ倦怠、咳嗽、微熱アリ頭重、頭痛、食欲不振ヲ訴フ、病況進行スルトキハ高熱アリ心悸亢進シ呼吸促迫ス經過不良ニシテ肺結核トナル者アリ

アジア歴史資料センター

1799

第三百十三　本病ハ軍隊ニ於テハ比較的多發シ肺結核ト同シク兵員減耗ノ主因タリ

第三百十四　胸膜炎ノ豫防ニハ漸進的訓練ヲ施シ殊ニ各人ノ體格、素質等ヲ知悉シ軍醫ノ意見ヲ諮スヲ要ス、過勞、胸部ノ外傷、感冒等ハ其誘因トナルヲ以テ之ニ注意シ特ニ休養ヲ適切ニシ尙患者ノ早期發見ニ努ムヘシ

第三　精神病

第三百十五　精神病ニハ多ク遺傳ヲ證明シ素質アル者ニ來ル、飲酒、梅毒ハ又其原因トナルコトアリ

第三百十六　精神病ノ素質アル者ハ元來精神薄弱ニシテ入營後衣食住

アジア歴史資料センター

ノ劇變ニ伴ヒ發病スル者多シ

戰地ニ於テハ精神感動、身神ノ過勞、睡眠ノ不足等ニ因リテ發スルコトアリ

第三百十七 精神薄弱ナル兵ハ其身上ニ就キ調査ヲ行ヒ軍醫ニ意見ヲ諮シ平素之カ保護ニ努ムヘシ

第三百十八 精神薄弱者ハ往々逃亡、自殺スルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

1800

アジア歴史資料センター

1801

第九編　防疫

第三百十九　病原ノ侵入ヲ防衛シ併セテ之カ殺滅ヲ期ス、之ヲ防疫ト云フ

第三百二十　防疫ノ實施ハ迅速ニシテ的確ナルヲ要ス

第三百二十一　古來戰役ニ於テ軍隊ハ屢〻傳染病ノ侵襲ヲ受ケ戰鬪力ヲ減殺セラレタリ

第三百二十二　軍隊ニ傳染病侵入スルトキハ啻ニ人命ヲ損スルノミナラス教育、訓練ヲ阻碍シ士氣ニ及ス影響大ニシテ無益ノ日數ト多大ノ經費トヲ失フ

アジア歴史資料センター

第一章　病原體

第三百二十三　病原體ニハ細菌ニ屬スルモノ(腸「チフス」、「コレラ」、「ペスト」等)、原蟲ニ屬スルモノ(「マラリア」、梅毒等)等アリ細菌及原蟲ノ種類ハ枚擧ニ遑アラス、病原體ハ其一小部分ニシテ現今尙不明ノモノアリ(痘瘡、麻疹、狂犬病等)

第三百二十四　病原體ハ極メテ細小ニシテ顯微鏡ヲ用フルニアラサレハ見ルコト能ハス、其形球狀ナルモノ、桿狀ナルモノ、弧狀ナルモノ、螺旋狀ナルモノ等アリ

第三百二十五　細菌ハ自己ノ分裂ニ依リテ增殖シ初メ一箇ノモノ二十四時間後ニハ約千七百萬箇以上トナルモノアリ

1802

アジア歴史資料センター

1803

第三百二十六　傳染病ハ概ネ名稱ヲ同フセル病原體ニ因リテ起ル、例ヘハ「コレラ」病ハ「コレラ」菌ニ因リ發生スルカ如シ

第三百二十七　傳染力强大ニシテ急ニ生命ニ危險ヲ及ス虞アルモノヲ法定傳染病ト稱シ「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ノ十種ナリ

第三百二十八　結核、癩等ハ其經過慢性ニシテ直ニ生命ヲ奪フモノニアラサルモ傳染ノ虞アルヲ以テ除役スルヲ例トス

第二章　傳染徑路

第三百二十九　病原體ハ種々ナル徑路ニ依リ人體ニ侵入ス、其主ナル

アジア歴史資料センター

モノ次ノ如シ

一　飲食物ヲ介シ主トシテ消化器ヨリ侵入スルモノ

イ　病原體ヲ有スル者食品ヲ取扱ヒタルトキ汚染セラレテ來ルモノアリ（腸「チフス」、赤痢等）

ロ　患者ノ排泄物等ニ觸レタル蝿、鼠等ニ依リ飲食物汚染セラレテ來ルモノアリ（腸「チフス」、赤痢等）

ハ　患者ノ排泄物、裝置不完全ナル下水又ハ便所等ヨリ井ニ洩レ來ルコトアリ（腸「チフス」、「コレラ」等）

ニ　牛ニ結核アリ其乳汁ニ因リ人ニ牛型結核ヲ生ス

二　飛沫又ハ塵埃ヲ介シ主トシテ呼吸器ヨリスルモノ（「ヂフテリア」、痘瘡、肺結核等）

1804

アジア歴史資料センター

三、主トシテ創傷ヨリスルモノ(「ペスト」、破傷風、狂犬病等)

四、主トシテ接觸ニヨリスルモノ(猩紅熱、痘瘡、性病等)

第三百三十 病原體侵入後增殖シテ發病スルニ至ル間ヲ潛伏期ト云フ潛伏期ハ疾病ニ依リ異ナリ短キハ一、二日ニシテ長キハ數週ニ亙ルモノアリ

第三章　菌保有者

第三百三十一 嘗テ傳染病ニ罹リタル者又ハ傳染病ニ罹ルモ症狀輕クシテ之ヲ自覺セサル者ニシテ其屎、尿及喀痰等ヨリ病原菌ヲ排泄スルコトアリ、此等ヲ菌保有者ト云フ

第三百三十二 腸「チフス」、「パラチフス」、赤痢、「コレラ」、流行性

1805

アジア歴史資料センター

1806

腦脊髓膜炎等ニハ菌保有者アリ

第三百三十三　菌保有者ヲ除クニ非サレハ完全ナル防疫ハ期シ難シ

是菌保有者ハ其排泄物其他種々ノ方法ニ依リ病原體ヲ播キ傳染セシムレハナリ

第四章　免疫

第三百三十四　病原體侵入スルモ之ニ冒サルル者ト冒サレサル者トアリ、其冒サレサル者又ハ冒サルルモ輕キ者ハ其體中ニ病原體ヲ殺滅スル物質ヲ有スルニ因ル、此物質ヲ免疫體ト云ヒ斯カル人ヲ免疫性アル者ト云フ

第三百三十五　免疫體ハ其病ニノミ特有ニシテ他ノ病ニ共通スルモノ

アジア歴史資料センター

1807

ニアラス

第三百三十六　或病原體ニ對シ生來全ク冒サレサル者アリ、之ヲ先天性免疫ト云フ

第三百三十七　免疫力ハ不攝生ニ因リ障害セラル、例ヘハ酒ノ濫用、暴飲、暴食等ノ如シ

第三百三十八　傳染病治癒後再ヒ同シ病毒ニ冒サレサル者アリ、豫防接種又ハ種痘ニ依リ體內ニ免疫體ヲ發生セシメ病原體ノ侵襲ヲ豫防スルコトアリ(自働免疫)、又免疫體ヲ含有スル血清ノ如キヲ注射シテ免疫ヲ附與スルコトアリ(他働免疫)、此等ヲ總テ後天性免疫ト云フ

第五章　豫防接種

アジア歴史資料センター

1808

第三百三十九 初年兵等ノ入營ニ當リ直ニ種痘及豫防接種ヲ行フハ先ツ各人ヲシテ該病ニ對スル免疫ヲ得セシメ感染ヲ豫防スル爲ナリ

第三百四十 豫防接種ハ全員ニ之ヲ施シ漏ルルモノナキヲ要ス、豫防接種ヲ受ケタルトキハ極メテ安靜ヲ守リ輕キ食餌ヲ採リ就床スルヲ可トス、輕キ發熱、全身違和、頭痛等アルモ一時性ナリ

第三百四十一 豫防接種液ハ通常細菌ヲ培養シテ之ヲ殺菌シ注射液ト爲セルモノナリ、現今朕「チフス」、「パラチフス」、赤痢、「コレラ」、流行性腦脊髓膜炎、「ペスト」、流行感冒性肺炎等ノ種類アリ

第三百四十二 豫防接種ハ先ツ左胸ヲ先ニシ右胸ニ及フヲ例トス

種痘ノ部位ハ通常左上膊トス

第三百四十三 豫防接種又ハ種痘ヲ受クルモ數日後ニアラサレハ免疫

アジア歴史資料センター

ヲ得ス

豫防接種ノ有效期間ハ約半年乃至一年ナルモノ多シ

第六章　傳染病ノ豫防

第三百四十四　衞戍地又ハ其附近或ハ兵營内ニ傳染病發生セシトキハ其種類及蔓延ノ程度ニ依リ豫防方法ヲ行フ

第三百四十五　傳染病豫防ノ爲實施スヘキ主ナル事項左ノ如シ

一　豫防委員　狀況ニ依リ之ヲ編成ス

二　檢　疫　部隊ノ營門等ニ於テ行フ

三　交通制限又ハ遮斷　傳染病發生地域及潛伏期間等ヲ考慮シテ之ヲ行フ

1809

アジア歴史資料センター

18110

四　健康診斷　患者ヲ早期ニ發見スル爲ニ行フ

五　豫防接種　狀況ニ依リ行フ

六　隔　離　患者發生セシトキハ直ニ入院セシメ該中隊、大隊或ハ聯隊ヲ屯營内又ハ廠舍等ニ隔離ス、是病毒ノ蔓延ヲ阻絶スル爲ニシテ其期間ハ病毒汚染ノ機會ヲ離レタルトキヨリ起算シ概ネ該病ノ潜伏期間トス

七　傳染徑路ノ探究　傳染徑路ヲ探究シ其徑路ヲ杜絶スルコトニ努ム

八　消　毒　病原體ヲ殺滅スル爲ニ行フ、病毒ヲ以テ汚染セラレタルモノ及場所ヲ速ニ消毒ス

消毒ハ必要ノ期間之ヲ反覆シテ實施ス

アジア歴史資料センター

消毒ハ清潔法ト相伴フヲ要ス

第七章　消毒法

第三百四十六　消毒法ニハ藥物消毒、蒸氣消毒、煮沸消毒、燒却等アリ

第三百四十七　消毒用藥物及其用法等次ノ如シ

一　「クレゾール」水（約二・五％）　室内及諸器物、吐瀉物、喀痰等ノ消毒ニ用フ

二　石炭酸水（約三％）　其用途右ニ同シ

三　昇汞水（約〇・一％）　昇汞ハ無色ナルニ依リ危險標示ノ爲通常赤色ト爲シアリ、金屬ヲ腐蝕スルヲ以テ之カ消毒ニ適セス

18111

アジア歴史資料センター

四　石灰乳　煆製石灰ニ約其半量ノ水ヲ注キテ粉末トシ其一容ニ水三容ヲ徐々ニ加フ

石灰乳ハ用ニ臨ミ調製シ攪拌シテ使用スヘシ、通常吐瀉物、溝渠、井溜、床下、便所等ノ消毒ニ用フ、「ペンキ」塗面ニハ適セス

五　「クロール」石灰乳　「クロール」石灰一容ニ水五容ヲ徐々ニ攪拌シツツ加フ、用途右ニ同シ

六　「フォルマリン」水（約一％）　「フォルマリン」水ハ革製品、被服、面具、書類、理髪具等ノ消毒ニ用フルモ排泄物、汚穢物等ノ消毒ニ適セス

七　「フォルムアルデヒード」瓦斯　「フォルマリン」ヲ水ト共ニ蒸發又ハ噴霧スルカ又ハ「フォルマリン」ニ過「マンガン酸カリウム」ヲ

1812

アジア歴史資料センター

1813

入レ「フォルムアルデヒード」瓦斯ヲ發散セシム

劍術防具、室内家具、陣營具等ノ消毒ニ用フ、消毒ノ際ハ露出面ヲ大ナラシムル如ク排列スルヲ要ス

八、「クロール」水　通常晒粉ノ適量ヲ溶解シ井水、野菜、漬物等ノ消毒ニ用フ

第三百四十八　蒸氣消毒ハ攝氏百度以上ノ溫度ヲ以テシ其消毒時間ハ裝置、消毒スヘキモノニ依リ異ナル

其消毒ニ際シ必要ナル注意左ノ如シ

一、革製品、護謨製品、紙製品等ハ蒸氣消毒ニ適セス

二、爆發又ハ發火シ易キモノハ不可ナリ

三、消毒物ヲ消毒裝置ニ納ムルニハ其露出面ヲ大ナラシムルヲ要ス

アジア歴史資料センター

第三百四十九 煮沸消毒ヲ行フニハ消毒物ヲ全部水ニ浸シ沸騰後十五分間以上煮沸スヘシ

煮沸水中ニハ約一%ノ割合ニ粗製炭酸曹達ヲ加フルトキハ效アリ

第三百五十 燒却ハ燒却場其他定メラレタル場所ニ於テ行フヘシ

第八章 主要ナル傳染病

第一 腸「チフス」及「パラチフス」

第三百五十一 腸「チフス」ハ「チフス」菌ニ因リテ起リ「パラチフス」ハA型又ハB型「パラチフス」菌ニ因リテ起ル、菌ハ尿糞ヨリ排泄セラレ(セン)夏秋ノ候ニ多シ、腸「チフス」ニ罹ルトキハ高熱持續シ精神鈍クナリ譫

1814

アジア歴史資料センター

1815

語ヲ發シ身體次第ニ衰弱ス、時ニ腸出血ヲ起スコトアリ

「パラチフス」ハ潛伏期及熱ノ持續短ク一般症狀腸「チフス」ヨリ輕シ

第三百五十二 主トシテ菌ニ汚染セラレタル飲食物ニ因リテ起ル

豫防法トシテハ煮沸セル食物ヲ攝リ暴飲、暴食ヲ慎ミ生水ノ飲用ヲ禁シ野菜、果實、漬物等ハ「クロール」水ニテ消毒シ市井ノ飲食物ヲ避ケ營内一般特ニ炊事場及厠ニハ驅蝇法ヲ勵行シ蝇ノ發生地ニハ石油乳劑等ヲ撒布スヘシ

營内ニ本病發生セルトキハ傳染病豫防ノ各項目ニ亙リテ實施スルヲ要ス

第二 赤痢

第三百五十三 赤痢菌又ハ赤痢「アメーバ」ニ因リテ起ル、病原體ハ屎

アジア歴史資料センター

ヨリ排泄セラルヽ夏秋ノ候流行性又ハ爆發性ニ發生シ熱帶地方ニハ常ニ散發ス

赤痢ニ罹ルトキハ下腹痛アリ下痢ニ次クニ下痢ヲ以テシ裏急後重シ(絞リ腹)、尿ハ漸次分量少クナリ後ニハ粘液血便ノミトナル

感染ノ方法竝豫防ハ略〻腸「チフス」ニ同シ

第三、「コレラ」

第三百五十四、「コレラ」菌ニ因リテ起ル

菌ハ患者ノ吐物及尿ヨリ排泄セラレ夏季ニ流行スルヲ例トス

「コレラ」ニ罹ルトキハ腹痛ナクシテ劇シキ下痢、嘔吐アリ、吐物及尿ハ米泔汁樣ニシテ身體急ニ衰弱シ目窪ミ聲嗄レ手足冷エ腓腸筋ノ痙攣

1816

アジア歴史資料センター

1817

ヲ起スコトアリ、多クハ死亡ス

第三百五十五　本病感染ノ方法ハ概ネ腸「チフス」ニ同シキモ豫防及消毒ハ嚴重ナルヲ要シ特ニ生水、生魚ノ使用、流行地方ニ於ケル游泳ヲ禁スヘシ

第四　流行性腦脊髓膜炎

第三百五十六　腦脊髓膜炎菌ニ因リテ起ル、菌ハ患者或ハ菌保有者ノ鼻咽腔中ニ存シ咳嗽時ノ飛沫ニ依リ或ハ觸接ニ依リ感染ス

本病ニ罹ルトキハ劇シキ頭痛、項部强直、高熱等アリ精神鈍クナリテ死スルコトアリ

第三百五十七　豫防ニハ口罩ヲ使用シ含嗽ヲ勵行シ室内清掃時ニハ塵

アジア歴史資料センター

埃飛揚セサルヤウ注意シ患者發生ノ中隙ハ室内、供用物及食器等ヲ嚴重ニ消毒スヘシ

被服、寢具ハ屢〻日光ニ曝スヘシ

第五 「ペスト」

第三百五十八 「ペスト」菌ニ因リテ起ル、本菌ハ鼠、「タルバカン」及蚤等ヲ介シテ感染ス、又直接皮膚ノ小創ヨリ感染スルコトアリ

菌皮膚ヨリ侵入スルトキハ皮膚ニ炎症ヲ起シ腋窩又ハ鼠蹊等ノ淋巴腺ヲ冒シ(腺「ペスト」)呼吸器ヨリ侵入スルトキハ咳嗽、血痰アリ(肺「ペスト」)、何レモ高熱ヲ發シ精神鈍クナリ死スルモノ多シ

第三百五十九 豫防ニハ鼠及蚤等ノ殺滅ニ努ムヘシ

1818

アジア歴史資料センター

鼠ノ驅除ニハ猫**イラズ**又ハ炭酸「バリウム」等ヲ用ヒ蚤ニ對シテハ除蟲菊、粗製石油乳劑等ヲ用フ

發鼠ヲ發見セシトキハ直接手ヲ觸ルルヘカラス、又流行時ニハ跣足ヲ禁シ小創ト雖忽ニスヘカラス

第六　發疹「チフス」

第三百六十　病原體不明ナルモ虱及南京蟲ハ本病ノ媒介ヲ爲スモノノ如シ、戰地ニ於テ屢〻流行セシコトアリ

本病ハ發疹、高熱等アリ

豫防ニハ居室及被服ヲ消毒シ特ニ虱及南京蟲ノ驅除ニ努ムヘシ、虱ノ驅除ニハ「ナフタリン」、「ヨードフォルム」、「クレオソート」ノ合劑等ヲ

1819

アジア歴史資料センター

用ヒ南京蟲ニハ「クロールピクリン」、苛性「ソーダ」等ヲ用フ

第七　猩紅熱

第三百六十一　病原不明ナルモ患者ノ落屑、鼻、咽頭ノ粘液中ニ含マルモノノ如シ

本病ハ發熱、咽頭ノ發赤、皮膚ノ紅疹ヲ生シ疹ノ褪色後落屑ス

豫防ニハ日覆及含嗽ノ勵行、兵舍、被服、食器ノ消毒等ヲ行フ

第八　流行性感冒

第三百六十二　病原體不明ナルモ患者ノ痰、鼻、咽頭ノ粘液中ニ含マレ其飛沫等ヨリ傳染ス、通常冬春ノ候ニ流行スルモ又夏季ニ於テモ發

1820

アジア歴史資料センター

18921

生スルコトアリ

本病ハ急ニ熱發シ頭痛、腰痛、關節痛等アリ、時ニ呼吸器、消化器又ハ神經系統ヲ冒スコトアリ

第三百六十三　豫防ニハ日覆ヲ用ヒ含嗽ヲ勵行シ交通ヲ制限シ時々食器ヲ煮沸シ室内ノ掃除ニ注意スヘシ

第九　「マラリア」

第三百六十四　「マラリア」ハ「マラリア」原蟲ニ因リテ起ル、「マラリア」原蟲ハ「マラリア」患者及原蟲保有者ノ血液及蚊ノ體内ニ在リ、蚊ノ刺螫ニ依リ人體ニ侵入ス、暖地及熱帶地ニ多シ、本病ニ冒サルルトキハ突然全身戰慄シ發熱、發汗、倦怠等アリ、發作間隔ニ依リ三日熱、

アジア歴史資料センター

1822

四日熱等ノ別アリ

病癒エタル後ト雖尚原蟲ヲ血液中ニ保有スル者アリ（原蟲保有者）

第三百六十五 豫防法ハ蚊ヲ勦滅スルニ在リ、乃チ排水ヲ良好ニシ雜草ヲ刈リ溝、水溜等ニ粗製石油ヲ注ク等防蚊施設ヲ完全ニスヘシ、又豫防ノ爲「キニーネ」ノ内服ヲ行フコトアリ

アジア歴史資料センター

18823

第十編　救急法

第三百六十六　救急法ハ古來武人ノ嗜トセル所ナリ、戰時受傷者ノ約半數ハ自己又ハ戰友ノ手ニ依リ應急ニ處置セラレタリ

抑、喧嘩ノ間ニ起リタル傷痍ニ對シテハ衛生部員ヲ待ツノ暇ナク直ニ應急ノ處置ヲ施シ患者ヲ救ハサルヘカラサルコトアリ、而モ處置ノ適否ハ爾後ノ經過ニ大ナル關係アルヲ以テ救急法ハ平素確實ニ會得シ置クヲ要ス

第一　止血法

第三百六十七　創淺ク出血甚シカラサルトキハ單ニ局部ヲ高クシ繃帶包中ノ「ガーゼ」ヲ創ノ上ニ當テ繃帶スルトキハ間モナク出血止ム、創

アジア歴史資料センター

深クシテ出血甚シキトキハ前記ノ處置ヲ施スニ先タチ創ヨリ心臟ニ近キ部分ニ於テ血管ヲ骨ニ向テ強ク壓スヘシ、若成功セサルトキハ三角巾又ハ其他ノ材料ニテ緊縛スルヲ可トス、然レトモ緊縛シタル儘永ク放置スルトキハ緊縛セル以下ノ部分ハ血行不良ノ爲壞疽ニ陷ルコトアルヲ以テ成ルヘク早ク(二時間以内)衞生部員ノ處置ヲ受クヘシ(衞生法及救急法參照)

第二　人工呼吸法

第三百六十八　假死ニ陷リタル者ニハ直ニ人工呼吸法ヲ施スヘシ、呼吸容易ニ回復セサルトキト雖早ク斷念スルコトナク術者疲レタルトキハ交代シテ十分其目的ヲ達成スルコトニ努ムヘシ

1824

アジア歴史資料センター

人工呼吸法ニ就テハ衛生法及救急法ニ據ルヘシ

第三　卒倒

第三百六十九　卒倒トハ腦ニ血行異常起リテ意識消失シ倒ルヲ云フ激シキ外傷ヲ受ケタルトキ又ハ驚愕、恐怖等ニ因リ卒倒スルコトアリ

第三百七十　卒倒ヲ起シタルトキ輕症ナル者ニハ被服ノ緊縛ヲ除キ、顏赤キトキハ頭ヲ高クシ、蒼キトキハ之ヲ低クシ、新鮮ナル空氣ノ下ニ安臥セシムルトキハ短時間ニテ快復スルコト多シ、重症ナル者ニハ皮膚ヲ刺戟シ冷水ヲ注キ時ニハ按摩ヲ試ミ手足ヲ末梢ヨリ心臟ニ向テ摩擦シテ血行ヲ促シ要スレハ人工呼吸ヲ施スヘシ、然レトモ出血ノ爲卒倒シタル者ニハ輕々シク此等ノ處置ヲ施スヘカラス

1825

アジア歴史資料センター

18.26

第四　火傷

第三百七十一　火中ノ人ヲ救助スルニハ先ツ自己ノ衣袴ヲ濡シ頭ニハ濡レタル布ヲ纏フヘシ、被服ニ火ノ點キタル者ハ直ニ地ニ臥セシメ火ヲ消スニ土砂等ヲ以テシ室内ニ在ルトキハ被服、寢具ノ類ヲ以テ覆ヒ焔ヲ消スニ努ムヘシ、焔ヲ消シタル後ハ水ヲ灌キ被服ヲ徐々ニ除去シ衣片傷ニ膠著セシ處ハ强テ引キ離サス剪ニテ切リ取ルヲ可トス

第五　電氣傷

第三百七十二　電氣ニ感シタル者ヲ救助スルニハ先ツ「スキッチ」ヲ切リ或ハ電氣ノ不良導體タル木材(板、椅子等)、竹、被服類等ヲ以テ患

アジア歴史資料センター

1827

者ヲ電流ヨリ離スヘシ、凡テ濡レタルモノ及金屬類ハ電氣ノ良導體ナルヲ以テ使用スヘカラス

第六　溺水

第三百七十三　溺水者ヲ救助セントスル者ハ自己ノ水泳技能ニノミ信賴スヘカラス、是溺者ハ救助者ニ抱キ付キ其運動ヲ妨ケ共ニ溺死スルニ至ルコトアレハナリ、寧ロ速ニ救命具又ハ板、梯子、綱等ヲ投ケ與ヘ之ヲ捕ヘシムルヲ可トス

溺死セシ者ノ處置ハ衛生法及救急法ニ據ルヘシ

第七　埋沒

アジア歴史資料センター

第三百七十四　埋沒者ヲ救ヒ出サントスル者ハ先ツ土砂ノ再ヒ崩壞シ來ルコトナキカニ注意スヘシ

第三百七十五　埋沒者ハ骨折、內臟破裂等ヲ伴フコト多キヲ以テ其取扱ニ注意スヘシ

其他ノ處置ハ衞生法及救急法ニ據ルヘシ

第八　瓦斯傷

第三百七十六　瓦斯傷ノ種類ニ依リ自ラ其處置ヲ異ニスルモ共通セル主ナル救急法左ノ如シ

一　瓦斯ニ中レル者ヲ救フニハ瓦斯ナキ處ニ移シ靜ニ仰キ臥サシメ遠ニ被服ヲ脫カセ覆面ヲ除クヘシ

18628

アジア歴史資料センター

二　鹽水又ハ水ヲ飲マセ指ノ尖等ニテ咽ヲ刺戟シ吐カシムヘシ、重曹水ヲ飲マスハ毒ヲ消ス效アリ

三　呼吸困難ニ陷ルトモ人工呼吸法ヲ行フヘカラス（衛生法及救急法參照）

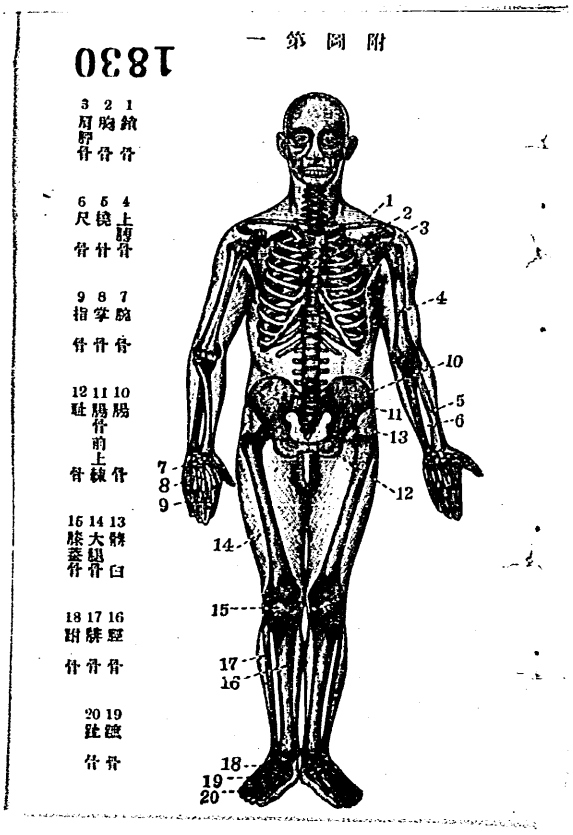
軍隊衛生學終

1829

アジア歴史資料センター

附図第一

1830



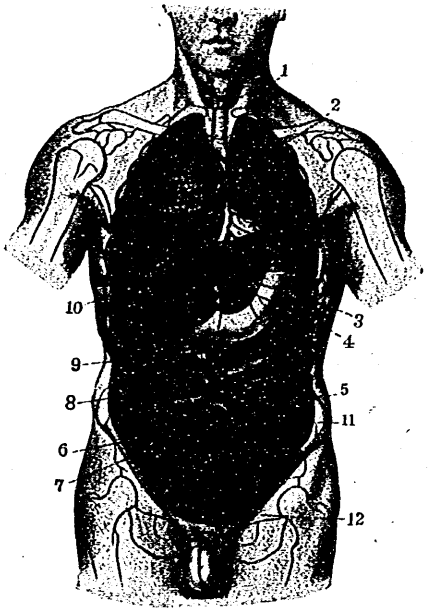
アジア歴史資料センター

附圖第二　1831

アジア歴史資料センター

附圖第三

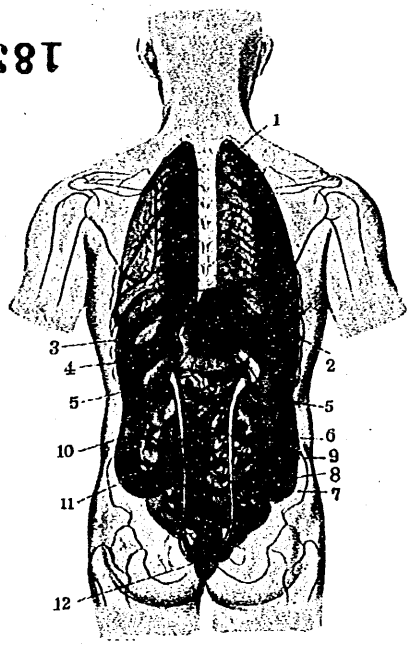
1832



1 甲狀腺
2 肺臟
3 胃臟
4 小腸
5 盲腸
6 虫垂突起
7 上行結腸
8 橫行結腸
9 肝臟
10 脾臟
11 膀胱
12 腎臟

アジア歴史資料センター

附圖第四

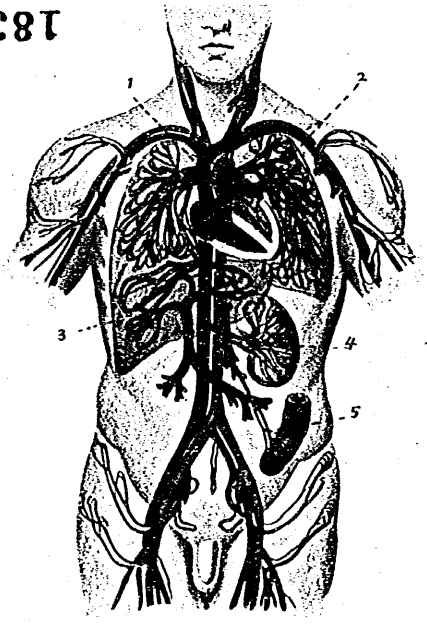


1 肺
2 肝臓
3 胃
4 腎臓
5 輸尿管
6 盲腸
7 虫垂
8 突起
9 上行結腸
10 下行結腸
11 S字狀部
12 直腸

1833

アジア歴史資料センター

附図第五



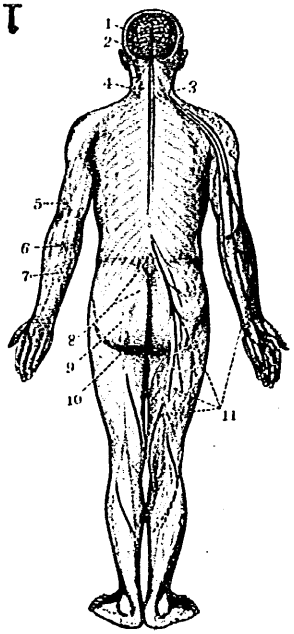
1 大動脈、上大静脈（大循環）
2 肺循環
3 門脈循環
4 腎動、静脈
5 腸動、静脈

1834

アジア歴史資料センター

附圖第六

1835



1 大腦
2 小腦
3 脊髓
4 上膊神經叢
5 橈骨神經
6 正中神經
7 尺骨神經
8 下肢神經叢
9 股神經
10 坐骨神經
11 皮膚神經

アジア歴史資料センター

1836

昭和七年八月五日　印刷
昭和七年八月廿日　發行

軍隊衛生學縮刷
定價金貳拾五錢

東京市下谷區池ノ端七軒町三十七番地
翻刻兼發行印刷者　島峰政次

アジア歴史資料センター